実践　第6章

鑑賞する力を磨こう

ワークシート②

学年	
組	
番号	
氏名	

作品の魅力を伝える

選んだ歌・句

作品名『　　』
教科書［　　］ページ

鑑賞文（二〇〇字）

感想欄　上の鑑賞文を読んで、各々の感想を数行ずつ書こう。

氏名［　　］

氏名［　　］

氏名［　　］

氏名［　　］

氏名［　　］

Welcome to the museum of Motoori Norinaga!
I will introduce "charm" of MATSUZAKA.

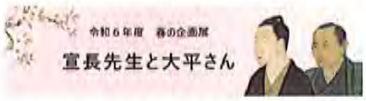
“ようこそ宣長記念館へ”

宣長の生涯から、その交流や著作まで、本居宣長紹介いたします。

詳細はこちら

NEWS & TOPIC
お知らせ

現在の展示



お知らせ

- 2024-04-04 令和6年度宣長十講のお知らせ
- 2024-03-25 鈴屋学会大会のお知らせ
- 2024-02-17 小中学生「宣長学習」作品展示会を開催
- 2024-01-25 夜の街を彩る「松阪の一夜（ひとよ）」されます。
- 2024-01-11 令和５年度 冬の企画展解説動画を掲載

本居宣長記念館は、公益財団法人鈴屋遺跡保存会が運営管理する我江戸時代の国学者・本居宣長の旧宅「鈴屋」を管理して公開し、展示室では『古事記伝』などの自筆稿本類や遺品、肖像画などを公また関連資料の収集や、宣長に関する調査や研究も行っています。宣長に関心をお持ちの方、また１８世紀後半の日本文化に興味をお持ください。

CONTACT
お問い合わせ

ご質問やご相談など、お電話またはメールフォームにてお気軽にお寄せください。

TEL. 0598-21-0312

月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）・年末年始休館
午前９時から午後５時（館内入館時間午後４時３０分）

お問い合わせフォームへ

本居宣長記念館
〒515-0073 三重県松阪市殿町1536-7 TEL：0598-21-0312 FAX：0598-21-0371
Copyright©本居宣長記念館 All Rights Reserved.

28

Instagram

さらに読み込む

開館情報
9:00~17:00（館内入館時間 16:30）
休館日：月曜日（日の場合は、翌平日）
年末年始 ※ が休館日

2024年04月 ‹ › 2024年04月

日	月	火	水	木	金
	1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26
28	29	30			

各種SNS

ABOUT US
当館案内

小論文準備メモ

取り上げる古文作品	
作品の要約	

違和感を覚えた部分	
なぜ？　その理由	

共感した部分	
なぜ？　その理由	

【主張】古典の世界に触れる意義とは （「違和感」と「共感」の理由を探って発見したこと、自分の日常に影響を与えた点など、根拠をまとめてみる）	

チャプター1
守株（韓非子）

チャプター2
五十歩百歩（孟子）

チャプター3
借虎威（戦国策）

再生開始 00 : 00 ～ 再生終了 03 : 50

決定してURLをコピー リセット

※この動画に字幕はありません

プレイリストに追加 シェアする ?

故事成語

言語文化 朗読

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。

31

チャプター1
推敲

00:00 / 00:52

再生開始 00 : 00 ～ 再生終了 00 : 52

決定してURLをコピー リセット

※この動画に字幕はありません

プレイリストに追加 シェアする ?

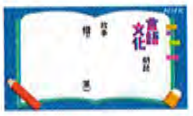
推敲

古典 朗読

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。

チャプター1
守株（韓非子）

チャプター2
五十歩百歩（孟子）


チャプター3
借虎威（戦国策）

再生開始 00 : 00 ～ 再生終了 03 : 50

決定してURLをコピー リセット

※この動画に字幕はありません

プレイリストに追加 シェアする ?

故事成語

言語文化 朗読

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。

秦始皇帝陵

来自千年前的

EMPEROR QINSHIHUANG'S MAUSOLEUM SITE

MUSEUM

チャプター1
死諸葛走生仲達

00:00 / 02:12

再生開始 00 : 00 ～ 再生終了 02 : 12

決定してURLをコピー リセット

※この動画に字幕はありません

プレイリストに追加 シェアする ?

死諸葛走生仲達

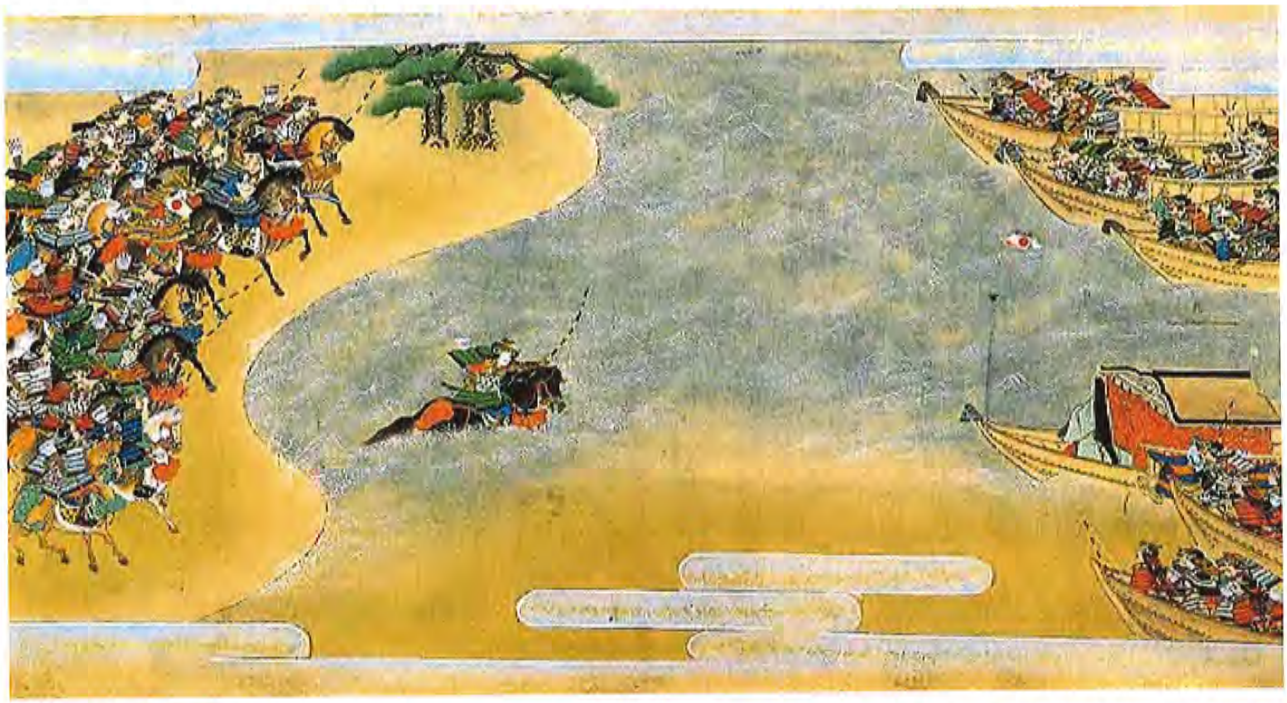
古典 朗読

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。

平家物語絵巻

全三十六巻のうち 巻第十一上「那須与一」

江戸前期 縦35.3cm 全長3300cm



ある入札目録の１ページ。全売立て品目２７３件の内の７２番として、１２の抽斗（ひきだし）を持つ黒漆塗の箪笥・筆者目録・巻子本・絵巻の場面（２カット）のモノクロ図版が掲げられています。これが、現在林原美術館に所蔵されている「平家物語絵巻」が世に出た瞬間でした。帝国大学卒の初任給が４０円ぐらいだったともいわれるこの時代に、５１９０円という高値で落札されていますから、その価値のほどが窺えるというものでしょう。昭和４年（１９２９）２月１２日東京市芝区愛宕下の東京美術倶楽部で開催された入札会での出来事です。

この日、古美術商「森与」によって「平家物語絵巻」は落札されますが、長らく誰の手に渡ったのか不明のまま時が流れます。そして第２次世界大戦後、当時積極的に美術品の収集をしていた故林原一郎氏が、東京の「朝日美術」から購入し、いまに至っています。問題の売立目録は、旧越前福井城主・松平侯爵家御蔵品入札目録であり、この絵巻のほかにも、城主の暮らしの様々なシーンを彩ったであろう品々で埋められていました。

金文字で各巻の題名がかかれた黒漆塗りの抽斗を見るだけでも、注文主が並のものではなかったことが察せられます。また、付随する筆者目録から、詞書（ことばがき）は公家・武家・滝本坊、絵は土佐左助、外題・初巻は青蓮院御門跡、箱銘書は西本願寺門跡であることまでは分かりますが、これ以外に絵巻に関わる資料は残念ながらまだみつかっていません。しかし、それは「婚礼調度として、娘に持たせたのかもしれない。親は、娘は誰？」、「その姫はどんな気持ちで絵巻を眺めたのだろうか？」などど、絵巻の流転物語を自由に想像できる楽しみがあるということでもあります。

学生時代、歴史や古文が苦手だった方でも「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理りをあらわす。奢れるものも久しからず。ただ春の夜の夢のごとし・・・」という冒頭の名調子は、スラスラと出てくるでしょう。その他は、ごく有名な数場面しか思い浮かばないかもしれません。入札目録の図版には「那須与一」と「壇浦合戦」が載っているので、ここにも登場させてみました。激しい合戦の最中に催されたショー、敵味方を忘れて与一を褒めたたえます。しかし続く場面では、この余興に酔い痴れて船上で舞っている平家の武者を「射よ！」という義経の命令が与一に下されます。そういう条（くだり）をご存じでしたでしょうか？他の作品では見られない場面も、１２巻本の「平家物語」を３６巻の絵巻に仕立てあるため、絵の数は７０５場面もあり、全巻を繋げば約１㎞という、この絵巻では見ることができます。まさに平家の栄枯盛衰が余すところ無く描かれていて、古典嫌いもつい引き込まれてしまう一品、いや３６巻なのです。

PREV. BACK NEXT

チャプター1
鹿柴

チャプター2
臨洞庭

00:00 / 01:25

再生開始 00 : 00 ～ 再生終了 01 : 25

決定してURLをコピー リセット

※この動画に字幕はありません

プレイリストに追加 シェアする ?

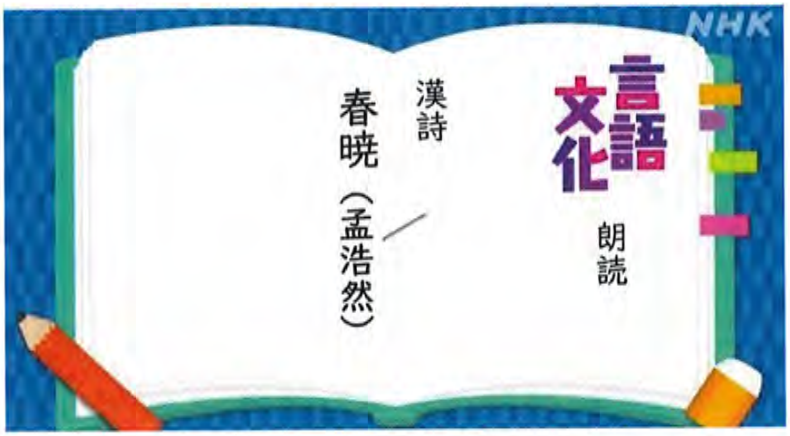
鹿柴・臨洞庭

古典 朗読

- 番組一覧
- マイプレイリスト
- 学習教材について・教科書検索
- 公式プレイリスト
- 高校講座時刻表
- 年間放送予定
- このサイトの使い方
- よくあるご質問
- サイトマップ
- ご意見・ご感想

NHKについて
ご意見・お問い合わせ
プライバシーセンター
プライバシーポリシー
NHK一般サイト プライバシーノーティス（パーソナルデータの取り扱い）
放送番組と著作権
NHKインターネットサービス利用規約

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。



再生開始 00 : 00 ～ 再生終了 02 : 26

決定してURLをコピー リセット

※この動画に字幕はありません

プレイリストに追加 シェアする ?

チャプター1
春暁（孟浩然）

チャプター2
黄鶴楼送孟浩然之広陵（李白）

チャプター3
涼州詞（王翰）

チャプター4
春望（杜甫）

漢詩

言語文化 朗読

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。

チャプター1
朝三暮四

00:00 / 01:41

再生開始 00 : 00 ～ 再生終了 01 : 41

決定してURLをコピー リセット

※この動画に字幕はありません

プレイリストに追加 シェアする ?

朝三暮四

古典 朗読

- 番組一覧
- マイプレイリスト
- 学習教材について・教科書検索
- 公式プレイリスト
- 高校講座時刻表
- 年間放送予定
- このサイトの使い方
- よくあるご質問
- サイトマップ
- ご意見・ご感想

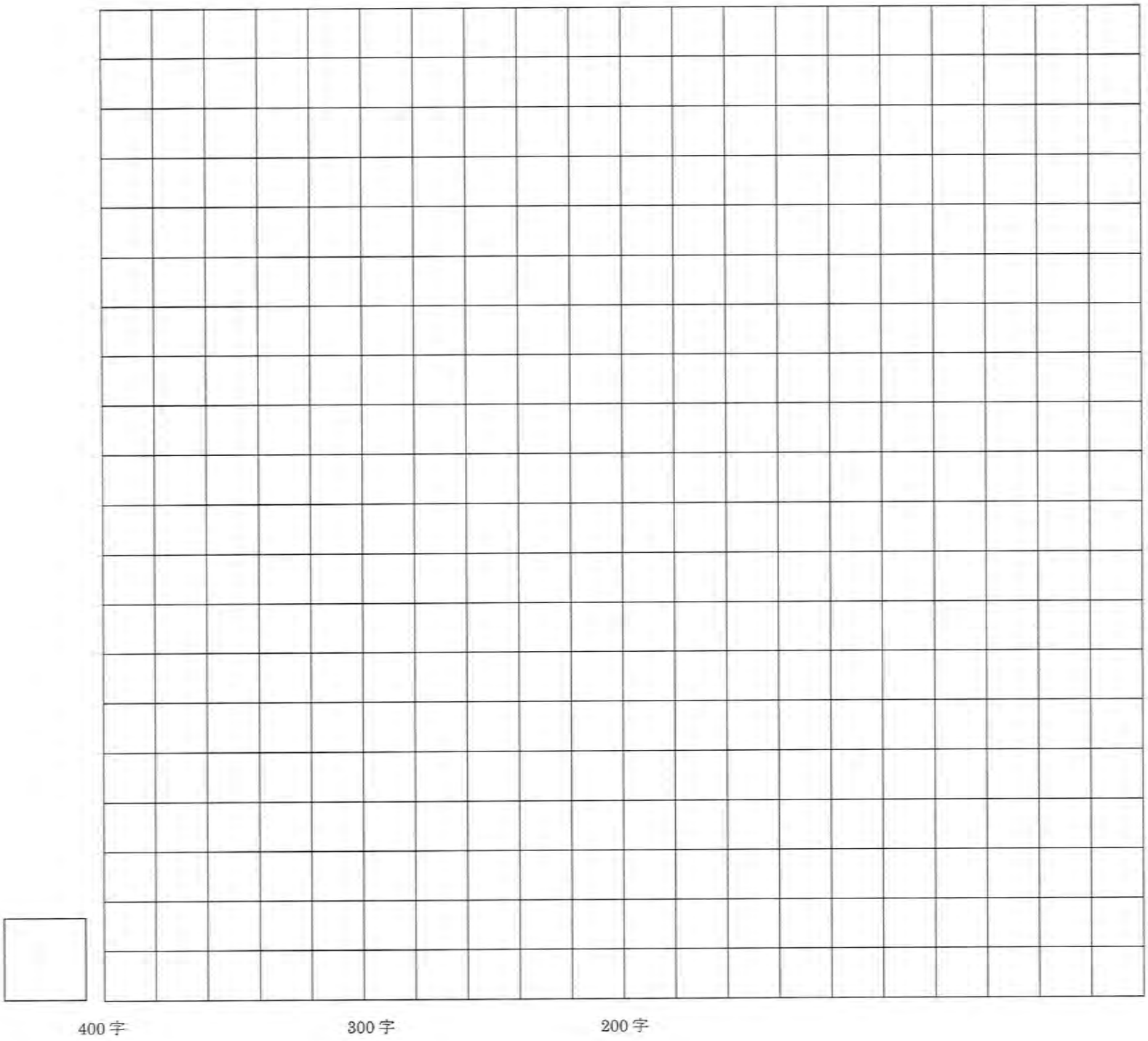
NHKについて
ご意見・お問い合わせ
プライバシーセンター
プライバシーポリシー
NHK一般サイト プライバシーノーティス（パーソナルデータの取り扱い）
放送番組と著作権
NHKインターネットサービス利用規約

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。

表現の特徴を読み取ろう

年	組	番	

◆これから学び続けたい事柄について、選んだことばを参考に、具体的な取り組み方を四〇〇字以内で書いてみよう。



400字　300字　200字

令和六年度 第三学年 文章題 2023 [問題36] 令和6年 [国立教育政策研究所]提供 大規模調査問題 ページ

文部 海

西鳥居 井堰川 鎌

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

三十五コマ

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

二十五コマ

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

四十五コマ

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

五十五コマ

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

六十五コマ

ゲーンのかぶとがくだけ、ゲーンはよろめいた。

ヒヨコ

ピヨピヨ

ヒヨコ

ピヨピヨ

ヒヨコ

ピヨピヨ

ヒヨコ

ピヨピヨ

ヒヨコ

ピヨピヨ

ヒヨコ

ピヨピヨ

ヒヨコ

ピヨピヨ

ヒヨコ

ピヨピヨ

印刷　図書印刷株式会社
製本　大口製本印刷株式会社

文　絵　岩井俊雄

発行　株式会社偕成社

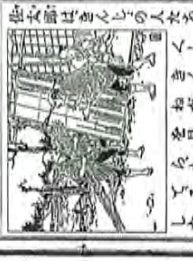
日本人はなぜ
ものごとを一つ一つ
数えるのか

そのとき
ぼくは
ふと
思いました。

ぼくは
ふと
思いました。

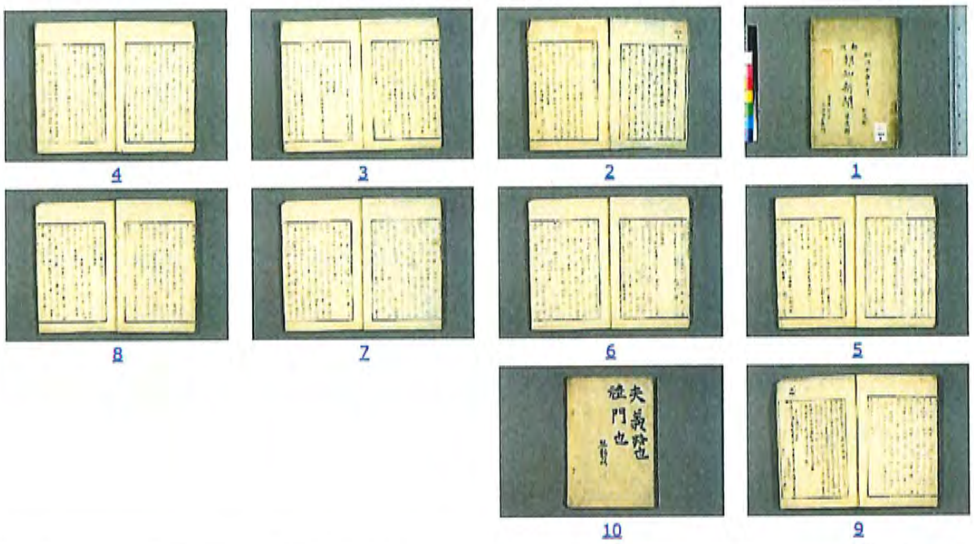
ぼくは
ふと
思いました。

ぼくは
ふと
思いました。



ぼくは
ふと
思いました。

請求記号：文庫10_07391_0004　10カット



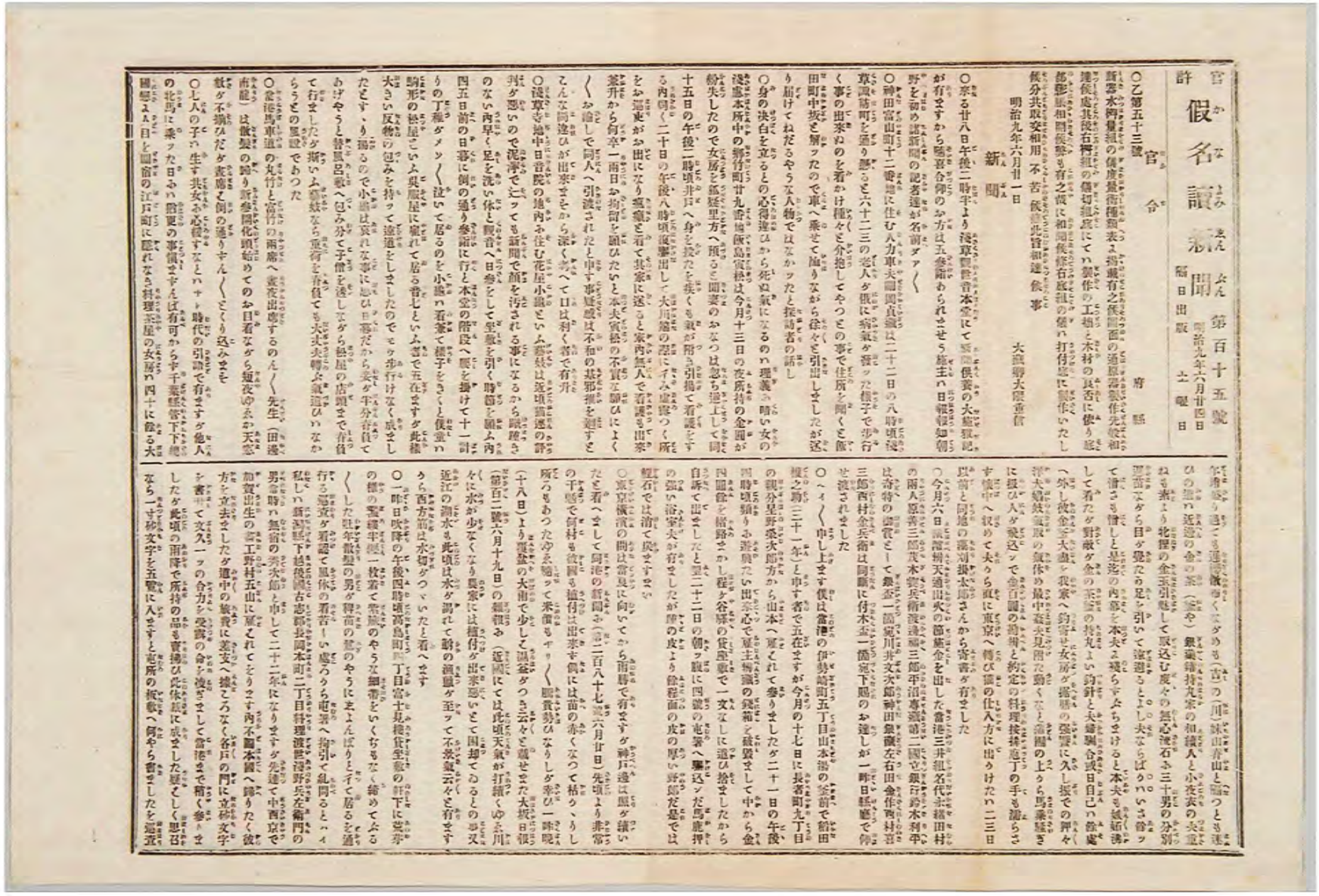
4 3 2 1

8 7 6 5

10 9

(c)Waseda University Library

小新聞：仮名読新聞 115 号 1876（明治 9）年 6 月 25 日刊　〔ニュースパーク日本新聞博物館蔵〕



仮名讀新聞

第百十五號

明治九年六月廿四日
毎日出版

官許

官令

○乙第五十三號　府縣

新零木綿晒組の儘度量衡種類表を掲載有之候間面の通厚紙製作先候相達候處其後右樣組の儘切組座にて製作の工場と木材の良否に依り組部數相調候難も有之候に付組の儘打付座に製作いたし候分共取交相用不苦候此旨相達候事

明治九年六月廿一日　大藏卿大隈重信

新聞

○來る廿八日午後二時半より淺草觀音本堂にて興行興業の大藍狐記が有ますから隣近合卿のお方は五參錢あられませう施主ハ日報如朝野を初め諸新聞の記者達が名前ダ〳〵

○神田富山町十二番地に住む人力車夫關眞藏は二十二日の八時頃淺草諏訪町を通り懸ると六十二三の老人ダ俄に病氣ダ發ッた樣子で步行く事の出來ぬのを看かけ種々と介抱してやつこの事で住所を聞くと飯田町中坂と解ッたので車へ乘せて施りながら徐々と引出しましたが送り屆けてねだるやうな人物で以なかッたと探訪者の話し

○身の決白を立るとの必得違ひから死ぬ氣になるのハ理義ふ暗い女の淺慮本所中の新竹町九番地飯島實藏は今月十三日の夜所持の金圓が紛失したので女房と狐疑里方へ預ると聞妻のおなつは忽ち逼上して同十五日の午後二時頃非戸へ身を投たを疾くも氣が附ち引揚て看護をする内倒〳〵二十日の午後八時頃復醒出して大川端の邊にイヤ虚實つく所をお通東がお出になり驚嘆と看て其家に送ると家内無人で看護も出來兼ネ升から何卒一兩日お拘留を願ひたいと本夫實藏の不貞を願ひによく〳〵お諭しで同人へ引渡されたと申す事柄感ハ不和の基邪擔を避すとこんな間違ひが出來ませふから深く糺へて口は利く者で有升

○淺草寺地中日音院の地内ふ住む花屋小職といふ者儀は近頃遊蕩の評判ダ悪いので親類で顔を汚される事になるから隱居さのない内早く足を洗い休と觀音へ日參をして堂敷を引く時節を願ふ内四五日前の日暮に例の通り參詣に行と本堂の階段へ腰を掛けて十一二ツの丁稚ダメッ〳〵泣いて居るのを小職ハ看兼て樣子をきくと僕童い騎形の袖屋ていふ呉服屋に雇れて居る者ダと云ふのを小職ハ看兼て樣子をきくと僕童い大きい反物の包みを持ッて遠通をしましたのでモウ步行けなく成ましたとすゝり揚るので小職は哀れな事に思ひ日暮だから妾ダ半分背負てあげやうと普風呂敷へ包み分て子僧を遂しながら袖屋の店頭さで背負て行ましたが斯いふ事柄ならば重荷とも背負ても大丈夫ダと云ふ通ひいなからうとの里證であつた

○金龍馬車道の丸竹と富竹の兩座へ晝夜出席するのん〳〵先生（田邊南龍）は散髮の跡り新參開化頭始めてのお目看ながら短夜ゆふか天窓ダ不揃なだが表席と側の通りやん〳〵とくり込みませ

○七人の子ハ生す共女ハ必殺すなといヤ〳〵時代の引諺で有ますが他人の花馬に乘ッた日ふハ當更の事慎ませんば有可から辛千葉縣管下下總國幡谷入日と同宿の江戸町に隱れなら料理茶屋の女房ハ四十に餘る大

年增ゆる通ッる連續ハ數多くなダめる（吉ノ川）鉢山春山と（つるつる連ひの誤ハ近邊の金の茶（金谷）景樂樓持丸茶の和續人と小夜衣の夫婦ねる者より花醒の金玉引魅して取込む度々の無心淺石ふ三十男の分別盛當なから日ダ覺たる足ゝ引いて遊通るとよし夫ならばいゝ餘ッて借さる體しと是迄の内幕を本夫ふ殘らず云ちけると本夫も感銘淸して着たが對敵ダ金の茶屋の持丸よい鈎針と夫婦喧嘩成ハ自己い餘處へ外し彼金茶大盛ダ我家へ鈎寄せ女房ダ據勝の強靈に入し振での押々澤大鏡妹實服の氣休め最中義夫見習た動くなと淺間の上ゝら馬乘騒さに提ひ人ダ飛込ッで金百圓の證書と約定の料理接待意丁の手も渡らさず懐中へ收めて夫ゝら直に東京へ轉び猫の仕入方に出ゝけたい二三日以前と同施の震別撮太郎さんから寄書ダ有ました

○今月六日淺草新天通出火の節集金を出した當港三井組名代永續田村の兩人原第三部長水實兵衛渡邊第三部平沼專藏第二國立銀行鈴木利平は寄特の御骨ニて彙盛一圓兒川井文次郎神田彙藏左右田金作西村喜三郎西村金兵衛は同斷に付木盛一圓宛下間のお達しが一昨日縣廳で仰せ渡されました

○〳〵申し上ます僕は當港の伊勢嶋町五丁目山本湯の釜前で鈑田權之助（三十一年）と申す者で五在ますが今月の十七日に長者町九丁目の親分星野柔次郎方から山本へ寫これて參りましたダ二十一日の午後四時頃ゟ急に出たい出家心で寫主物語の錢箱ダ破壞さして中から金四圓餘を懐路さかし程ダ谷勝の貨座敷で一文なしに遣ひ捨させたから自暴て出ましたと翌二十二日の朝ッ眼に四圓の宅筆へ驅込ッだ馬鹿押の強い浴室夫が有ましたが扉の皮より餘程面の皮の厚い野郎だ是では鰹石では消て戻せますまい

○東京横濱の間は當風に向いてから雨勝で有ますダ神戸邊は風ダ續いたと看ましして同地の新聞ふ（第二百八十七號六月廿日）先頃より非常の干魃で何村も彼岡も植付は出來ず偶には苗の赤くなつて枯ゥゝしい所ゟもあつた次第ふ驚ッて來當ますゥ〳〵昨實勢ひなりしダ幸ひ一時晩（十八日）より覆盆の大雨で少しと調益ダつき云々と載せた大阪日報（第百二號六月十九日）の續報ふ（近國にては此頃天氣が打續くゆゑ川々に水が少なくなり農家には種付ダ出來悪いとて國却でゐるとの事又近江の湖水も此頃は水ダ減れて鮒の繩風ダ至ッて不景氣云々と有ますから西方前は水切ダつゝいたと看へますす

○一昨日吹降の午後四時頃高島町二丁目富士見樓住金藏の軒下に雲雀の雛の雲雀半羽一枚着て落旅のやうな細雪をいくらもなく鳴めてゐる〳〵した此年齡髮の男ダ得高の慧のやうにもよんばかとて居るを通行る通筆ダ看聽て風休の看苦い處ゟうら町筆へ指引て私聞るとハイ私しい新潟縣下越後國古志郡長岡本町二丁目料理渡世澤野兵左衛門の男金藏ハ無宿の栄次郎と申して二十二年になりますダ先達て中西京で加賀出生の雲工野村五山に逢これてそうさす內不圖本國へ歸りたく彼方を立去ましたダ道中の旅費に差支へ據ころなく各戸の門に立砂文字ヲ書出て文久一ツの合力ダ受齊の命ダ渡ましして當港まで稽く參ましたが此頃の雨降で所持の品も實掃び此休館に成ました疑しく思召なら一寸砂文字を五錢に入ますと直所の板數へ何やら書ましたを通宵

番組トップ放送リスト番組紹介

番組からのお知らせ

2024.04.02
４月よりレギュラー放送開始！　Ｅテレ　毎週水曜日　朝６時～６時１０分　番組ラインナップ

チャプター　あらすじを読む

オープニング
ないようを読む
(オープニングタイトル)

scene 01
雨の夕暮れ、羅生門の下で

１０ｍｉｎ．ボックス　現代文

羅生門（芥川龍之介）

シェアする

飢饉に見舞われた京都、羅生門という舞台設定を映像で解説。生きるか死ぬかの究極的な状況下での悪やエゴイズムという作品のテーマ、緻密で緊迫感に満ちた文章を味わう。

あらすじを読む

プレイリストに追加

配信リスト

羅生門（芥川龍之介）
飢饉に見舞われた京都、羅生門という舞台設定を映像で解説。生きるか死ぬかの究極的な状況下での悪やエゴイズムという作品のテーマ、緻密で緊迫感に満ちた文章を味わう。

トロッコ（芥川龍之介）
大人扱いされたときの無邪気な喜びと、保護を失ったと⑦の恐怖感。誰にも思い当たる子ども時代独特の感覚を、巧みな人物描写や心象風景に注目して読み取る。

オツベルと象（宮沢賢治）
純粋な象と、悪がしこいオツベルの動画遊悪物語？いや、宮沢賢治ワールドはそんなに簡単ではない！不思議なオノマトペや比ゆと暗ゆに満ちた物語を堪能する。

43

山月記（中島敦）
狂気じみた自己愛、名声への執着を描いた短編。舞台は中国の官吏登用などの社会制度を解説する。現実離れした物語の中に描かれる、人間心理のリアルな描写を味わう。

短歌
王朝時代からの長い伝統を持つ短歌。近代、西洋の思想が流入する、新しい表現が花開いた。自我を大胆に肯定した与謝野晶子、生活を歌った石川啄木を中心に、作品を読む。

俳句
文字数の少なさゆえに、広くも狭くも表現できる俳句。意外な言葉の取り合わせや、多様な解釈を許す表現が、奥行きのある句を生み出す。明治以降の名作を紹介する。

戦争と平和の詩
戦争と言う体験は、文学の世界でもさまざまな作品を生んだ。原民喜や茨木のり子の詩を中心に紹介し、時代や歴史の矛盾を見すえた文学者の眼差しを探る。

坊っちゃん（夏目漱石）
絶妙な人物描写が魅力の漱石作品。語彙が難しいからといって読むのを躊躇しては勿体ない。登場人物の相関関係を分かりやすく解説し、全編読破へいざなう。

こころ（夏目漱石）
文豪漱石の代表作。謎ときめいた展開と複雑で挑戦な心理描写で読者を引きつける。明治時代の思想的な変革を解説し、小説の中でせめぎあう様々な価値観を読み取ってゆく。

舞姫（森鷗外）
激石と並ぶ文豪の代表作。主人公は、母親、国、恋愛など様々な価値観に引き裂かれ、人生の目的を見失う。時代背景を解説し、独特の文語文で書かれた物語を整理する。

初恋（島崎藤村）
この詩が世に出て100年。当時は恋愛自体が新鮮な概念だったが、今ではすっかり詩や詞のテーマの定番だ。この時代の恋愛観をたどり、定型詩特有のリズムを味わう。

43

道程（高村光太郎）
この回は、朗読にこだわる。同じ作品でも、解釈の違いが朗読にあらわれる。様々な人にこの詩を自由に解釈してもらい、その人なりの朗読を聞かせてもらう。

サーカス（中原中也）
幻想的で印象的なことばの響きを持つ、中原中也の作品を複数紹介。時代との距離感、独特の作品世界、オノマトペなどの表現を鑑賞する。

武蔵野（国木田独歩）
秋から冬の武蔵野の風景を詩情豊かに描った、明治時代の随想的短編小説。東西の文学を引用し、雲景を通して風景の美しさを感覚した、今もなお、印象鮮やかな文章を味わう。

故郷（魯迅）
人々が故郷に抱く郷愁は万国共通。しかし、この作品が描く望郷の念は、ひとあわ違い。なぜだろう。19世紀の中国という社会背景や、作品のテキストから考える。

たけくらべ（樋口一葉）
日本最初の職業女流作家による、短編小説。少女の切ない初恋が、清純な文体でつづられている。遊郭と言う地域、当時の女性観などを解説し、この作品の世界を紐解く。

明治文学史
明治維新は、激動の近代の幕開けであったと同時に、日本語の大変革の幕開けでもあった。二葉亭四迷らの言文一致運動など、具体例を紹介しながら文体の変化をたどる。

日記
日々の出来事や、人に言えない思いが記す日記。そこに綴られるのは、自分自身と向き合う言葉だ。近代の文学者の日記を中心に読む。

手紙
文豪達による有名な手紙を題材に、心を動かす手紙とは何かを考える。芥川龍之介や夏目漱石らが残した手紙を、「恋愛」「旅」などのテーマごとに紹介する。

走れメロス（太宰治）
友情と正義の物語として、多くの読者を感動させてきたこの作品。では、他の登場人物の立場になったら、どんな風に見えるのだろう？視点を変えて読んでみる。

ばんぐみ一覧
プレイリスト
おうちで学ぼう！
学びをひろげよう
ちかすごい動画
ちかすごい動画 文化財編
基本のいろ
SDGs17の目標解説 ポスター
戦争について考えてみよう
ウクライナ
アニメバラード 海辺のエトピリカは笑顔です か？
世界を笑顔しよう！
GIGAサポーターズはじめるBook
当用漢字のクイズゲーム・スクール
新1年生への おすすめ本5冊
ワイワイ・パラリンピック
アオとライオンのSDGsダイバシティ
スロウ！
ウクライナ
ヘルプ
よくある質問
NHK for School お問い合わせ（新規）
NHK for School アプリ
NHKキッズ アプリ
NHK for School API
基礎表（PDF:260KB）
サイトマップ
リンク集
NHK学校放送
NHKアーカイブス
NHK高校講座
NHKスペシャル
NHKアーカイブス
NHK高校講座
Nコン2024 NHK全国学校音楽コンクール
NHK杯 全国中学校放送コンテスト 全国決勝放送コンテスト
NHKラーニング
キッズワールド
NHKこども科学クラブ
NHK NEWS WEB
福祉ビデオライブラリー NHKサイト紹介
放送局学生ネットワーク NHK杯コンテスト

43

ご意見・お問い合わせ　プライバシーポリシー
NHK一般サイト プライバシーノーティス
（パーソナルデータの取り扱い）

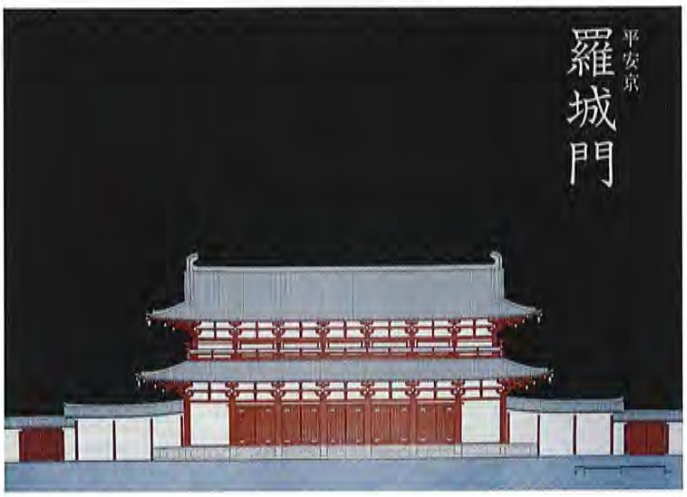
「NHK一般サイト プライバシーノーティス（パーソナルデータの取り扱い）」を公表しました。こちらからご覧ください。

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation). All rights reserved.許可なく転載することを禁じます。このページは受信料で制作しています。

日本最大級の門

平安京「羅城門」の想定復元

復元：大林組プロジェクトチーム



一国の首都には、古来ごく具体的で視覚的な、象徴的なランドマークとしての建物が必要とされた。その特性をよく体現したのが、創建当初から"千年の都"と期待された平安京の正門「羅城門」である――実在した門のなかでもっとも知名度が高く、最大級の規模であったはずだが、その正確な姿はまだ分かっていない。それを明らかにしようと、わたしたちは復元プロジェクトチームを立ち上げた。

平安遷都

天応元年(781)に即位した桓武天皇は、政治の刷新をはかるため、それまでの平城京を離れ、長岡京を経て慌ただしく延暦13年(794)に次なる新都建設に着手する。新都は翌年には「平安京」と名づけられ、以後千年をこえてほとんど日本の中心であり続けることにな

PDFで全編を読む

この記事が掲載されている冊子

No.2「門」

専門家、登竜門、一門の誉れ、門外漢、門前払い、笑う門には・・・など、「門」は日本語の中で非常に多く使われている。それは「門」が建築学的のみならず、日本語として十分にその意味が理解されていることに他ならない。
「門」をテーマにした本号のOBAYASHI iDEAでは、日本最大級の大きさを誇り、平安京という華麗な都全体を代表し、日本に実在した門の中で最も知名度の高い羅城門に注目した。羅城門について語り継がれてきたことは多く、豪壮な姿は史料や伝説の中で語り行っているものの、その全容は今日まだ明らかにされていない。私たちは、限られた資料をもとに、この羅城門の復元に挑戦を試みた。
(1978年発行)

羅城門復元の試み
復元：大林組プロジェクトチーム

「羅城門」をめぐって

凱旋門の思想
高階秀爾(東京大学助教授)

対談：「東洋の門と文化交流」
陳舜臣(作家)
岩宮武二(写真家)

比較門芸学
小松左京(作家)

日本語の中の「門」

ダイジェストを読む
全編を読む

 ©OBAYASHI CORPORATION. All rights reserved.

る。このとき、唐の都"長安"の例に習い、新都の南面中央に建造されたのが「羅城門」である。門は、昼間だけ出入りをゆるされ、朝と夕に太鼓の音とともに開かれ、また閉じられた。つまり、都の内と外がつよく意識され、都大路とその外世界を区切る"結界"として築え立っていたのだ。

羅城門のかたち

羅城門のかつての正確な位置については、いまもよく分かっていない。東寺の西へ500mほどの唐橋花園児童公園に『羅城門遺址』の石碑がある。一帯は民家で、発掘調査ができず、遺構は未発見のままである。幾つか残る文献は記述が別れており、位置も姿も確証に至らなかった。

そこで、朱雀門と羅城門が同じ規模であったことに着目。『延喜式』に朱雀門は「二階七間戸五間」と記されており、これを規模の根拠とした。さらに、『伴大納言絵詞』にある朱雀門を見ると、二重閣の入母屋造りに、間口七間、奥行き二間と、その姿が知れる。

これに従って羅城門も、同様に二重閣7間とし、一間の長さは、時代の近い平城京の朱雀門にならって17尺(5.1m)とした。高さについては、当時は側柱の高さを柱間に等しくするのが通例で、したがって二層の門の下層階の柱高は、柱間と同じ17尺(5.1m)と定めた。また、上層階の柱の長さは、法隆寺中門の比例にならい、6.5尺(2m)とした。これで、基壇を含めた全高は70尺(21m)をこえ、現代の六階建てのビルほどになる。

施工のこと

律令体制下の正規の建築工事は、「木工寮」があたっていた。羅城門の場合のような大事業には専任の役職と役所を設けるが、技術面の施工などは木工寮が協力した。木工寮の技術職は、玄蕃寺を大工と少工とし、その下に木工、土工、瓦工などからなる12名の責任者・長上工がいて、さらにその下に番上工が現場を所管した。実際の作業は、さらに下部集団の駈使丁(くしちょう)と呼ばれる人びとがあたる。労役は民衆に課せられた役の一つであったようだ。

●建築材＝ヒノキ材で造営されていたはずである。当時は近くの天然林を伐採したと考えられるが、現在は乱伐により、大径の古木は国内にはほとんど存在しない。
●瓦・シ尾＝東・西両寺を緑釉の瓦で葺いたという記述があり、実際にも出土しているので、羅城門についても同じとする。シ尾は、全高はおよそ1.9mにもなる。

これをいま造るとしたら、工期は、ヒノキは台湾産を輸入すると仮定して、その木材到着後およそ3年かかる。その期間の多くは、木材の加工と組み立てに費やす。また、工費は桂材に台検をつかい、他の部材に内地材をつかうとすれば、約25億円である。このうち、木材の調達費用だけで60%を占めることになり、これほど巨大な建築物を実現しようとすれば、材料の調達が最大の課題となる。

――のちに都は縮小荒廃していく。『日本紀略』は816年8月夜の大風で羅城門が倒れたと記している。この門は都合三度風により倒れており、さらに、『宇治大納言物語』によれば、979年に3度目の倒壊をし、これをもって以降は再建されなかった。当時の平安京の衰勢を反映したのであろう、この門も都の"結界"としての役割を終えていたのである。

夢十夜

夏目漱石

＋目次

第一夜

こんな夢を見た。

腕組をして枕元に坐っていると、仰向に寝たなが、静かな声でもう死にますと云う。女は長い髪を枕に敷いて、輪郭のはっきりした、透き通るその中に横たえている。真白な頬の底に温かい血の色が程よく差して、唇の色は無論赤い、とうてい死にそうには見えない。しかし女は静かな声で、もう死にますと判然云った。自分も確にこれは死ぬなと思った。そこで、そうかね、もう死ぬのかね、と上から覗き込むようにして聞いて見た。死にますとも、と云いながら、女はぱっちりと眼を開けた。大きな潤のある眼で、長い睫に包まれた中は、ただ一面に真黒であった。その真黒な奥の奥に、自分の姿が鮮に浮かんでいる。

自分は透き通るほど深く見えるこの黒眼の色を眺めて、これでも死ぬのかと思った。それで、ねんごろに花の降へ口を付けて、死ぬんじゃないかなうるね、大丈夫だろうね、と凝た聞き直した。すると女は黒い瞳を眠そうに一遍閉じた。やっぱり静かな声で、でも、死ぬんですもの、仕方がないわと云った。

じゃ、私の顔が見えるかいと一心に聞くと、見えるかいって、そら、そこに、写ってるじゃありませんかと、にごりと笑って見せた。自分は黙って、顔を枕から離した。頭巾をしなければ、どうしても死ぬのかなと思った。

しばらくして、女が重たこう云った。

「死んだら、埋めて下さい。大きな真珠貝で穴を掘って、そうして天から落ちて来る星の破片を墓 標に置いて下さい。そうして墓の傍に待っていて下さい。また逢いに来ますから」

自分は、いつ逢いに来るかねと聞いた。

「日が出るでしょう。それから日が沈むでしょう、それからまた出るでしょう。そうして depth 沈むでしょう。——赤い日が東から西へ、東から西へと落ちて行くうちに、——あなた、待っていられますか」

自分は黙って首肯いた。女は静かな調子を一段張り上げて、

「百年待っていて下さい」と思い切った声で云った。

「百年、私の墓の傍に坐って待っていて下さい。きっと逢いに来ますから」

自分はただ待っていると答えた。すると、黒い瞳のなかに鮮 に見えた自分の姿が、ぼうっと崩れて来た。静かな水が動いて写る姿を乱したように、流れ出したと思ったら、女の眼がぱちりと閉じた。長い睫の間から涙が頬へ伝わった。——もう死んでいた。

自分はそれから depth 下りて、真珠貝で穴を掘った。真珠貝は大きな depth な様の感じが real であった。土をすくうたびに、月の影に月の光が差してきらきらした。掘った土の傍もした。穴はしばらくして掘れた、女をその中に入れた。そうして柔らかい土を、上から sorrow とかけた、掛けるたびに真珠貝の縁に月の光が差した。

それから星の破片の落ちたのを拾って来て、かろく土の上へ載せた。星の破片ばれかった。長い間大空を落ちている間に、角が取れて滑かになったんだろうと思った。抱き上げて土の上へ置くうちに、自分の胸と手が少し暖くなった。

自分は苔の上に坐った。これから百年の間こうして待っているんだなと考えながら、腕組をして、long 日 sun 石を眺めていた。そのうちに、女の云った通り日が東から出た。大きな赤い日であった。それがまた女の云った通り、やがて西へ落ちた。赤いまんまでのっと消えて行った。一つと自分は数 数えた。

しばらくするとまた東 red の天辺がのそりと上って来た。そうして黙って depth 沈んでしまった、二つとまた数えた。

自分はこう云う長に一つ二つと勘定して行くうちに、赤い日をいくつ見たか分らない、勘定しても、勘定しても、しつくせない ほど赤い日が頭の上を通り越して行った、それでも百年がまだ来ない。しまいには、苔の生えた丸い石を眺めて、自分はなに 焦されたのではなかろうかと思い出した。

すると石の下から depth 自分の方へ向いて青い茎が伸びて来た。見る間に長くなってもうと自分の胸のあたりまで来て留まった。と思うと、すらりと揺く間の 頂 に、心持蕾を持けていた細長い一輪の華が、ふっくらと 脹 を開いた。真白な香 high が鼻の先で消え apple ほど匂った。そこへ遥の上から、ぽたりと露が落ちたので、花は自分の重みでふらふらと動いた。自分は首を前へ出して冷たい露の滴る、白い花弁に接 吻した。自分が唇から顔を離す間 手に忌わず、遠い空を見た時、暁 の星がたった一つ輝いていた。

「百年はもう来ていたんだな」とこの時始めて気がついた。

第二夜

こんな夢を見た。

和 尚の室を退がって、廊下 伝いに自分の部屋へ帰ると行 灯がぼんやり点って いる。片 膝を坐 蒲団の上に乗いて、灯心を掻き立てたとき、花のような丁 子がぱたりと朱塗の台に落ちた、同時に部屋がぱっと明かるくなった。

襖の絵は無論の事である。黒い幽を濃く薄く、遠近とかいて、今もそうな depth 大好 な竹を植けて主李の上を通る、床には海 中 文 雅の軸が懸っている。筑き慣した禄香が幽い冷 eye い部だに薫っている。広い寺だから森 閑として、人気がない。黒い天 井に differ 孔 行 灯の丸い影が、御丽く 縁端に生きてるように見えた。

立 膝をしたまま、左の手で座蒲団を指って、右を返しふんで見ると、思った所に、ちゃんとあった。あれは変だから、蒲団をもとのごとく直して、その上にどっかり座った。

お前は 侍 である、侍なら情れぬはずはなかろうと和 尚が云った。そういつまでも情れぬところをもって見ると、御前は侍ではあるまいと言った。人間の皮じゃと云った。ははあ見 たなと云って笑った。口借しければ借った経掛を持って来いと云ってふいと向をむいた。厭しからん。

暗の広間の床に掛 てある達 磨 目が次の刻を打つまでには、きっと悟って見せる、悟った上で、今夜また入 室する。そうして和尚の首と指りっと引 抜にしてやる、悟らなければ、和尚の命が危れない、どうしても悟らなければならない。自分は侍である。

もし情れなければ自刃する。侍が等しめられて、生涯ている折には行かない。情れに死んでしまう。

こう考えた時、自分の手はまた思わず布団の下へ這入った。そうして菓 朝の指刀を引き指り出した。ぐっと束を押って、赤い鞘を向へ払ったら、冷たい刃が一度に眼い部屋で光った。凄いものが手元から、すうすうと流げ行くように感われる、そうして、ここどくく切 先へ集 まって、夜気を一点に view めている。自分はこの鋭い刃が、熱 息にも情の頭のように揺 られもせで、九寸五分の先へ来てやむを失 ているのを見て、たちまちぐさりとやりたくなった。自体の命がもの半 間の方へ流れて来て、握っている束が に もちゃ にゃする、握 が 餓えた。

刀刀を鞘へ収めて右脇へ引きつけておいて、それから座 禅を組んだ。——趙 州 口く無とは何だ、無とは何だ、異坊 主めとはがみをした。

歯面を強く咬み締めたので、鼻から熱い息が荒く出る。こめかみが釣って痛い、眉は普通の倍も大きく開けてやった。

悪 智が見える。行灯が見える。襖が見える。和尚の薬 師 頭がありありと見える。胴 口を開いて唇 spec 大きく声で加える、厭しから人坊主。どうしてもの盗出を前にしなくてはなら ん。悟っていろ、無だ、無だと首の根で楽こた。無だと云うのにやっぱり提 唱の音がした。何だ提唱のくせた。

自分はいきなり拳 骨を固めて自分の頭をいやと云うほど殴った。そうして頭

歯を ぎりぎりと噛んだ。脂 絡から汗が出る。紳中が棒のようになった。膝の関節が急に痛くなった。紳が折れたってどうあるものかと思った。けれども痛い。苦しい。無はなかなか出 来ない。出て来ると思うとすぐ消くなる。絡が立つ。無念になる。非常に口借しくなる。涙が ぽろぽろ出る。ひと思に肩を 目 鏡の上に ぶつけて、骨も肉もめちゃめちゃに砕いてしまいたくなる。

それでも敢闘してじっと坐っていた。頭 丸がたいほど切 迫 いものを胸に感れて 苦んでいた。その切迫いものが身体中の筋肉を下から持上げて、毛穴から外へ放き出 like 吹き出 like と来るけれども、どこも一面に 塞がって、まるで出口がないような状 態 like 思った。

そのうちに頭が変になった。行 灯も 襖絵の通も、壁も、 窓 縁も有って無いような、無くて有るように見えた、と云って 無はちっとも 現 前しない。ただ好 奇 眼に 坐っていたようである、ところへ急 然 隣 座敷の時計がチーンと鳴り始めた。

はっと思った。右の手をすぐ 短刀にかけた。時計が二つ 目をチーンと打った。

第三夜

こんな夢を見た。

六つになる子 供を負ってる。たしかに自分の子である、ただ不 思議な事には いつの間にか 姐が 潰れて、背 位 主になっている、自分が 前 の 肩 はいつ潰れたのかいと聞くと、なに 首から depth と答えた、声は子 供の声に 相違ないが、言 葉つきはまるで大人である、しかも 非 常に。

左右は青田である。 道 は 細い、 緑 の 影が 時々 闇に 差す。

「田圃へかかったね」と 紳中で云った。

「どうして解る」と 顔を 後ろへ振り向けるようにして聞いたら、

「だって 蛙が 鳴くじゃないか」と 答えた。

すると 蛙 がはたして二 声ほど 鳴いた。

自分は 我 子 ながら少し 怖くなった。こんなものを 背負っていては、この先どうなるか分らない、どこか行 遠 る 所はなかろうかと向うを見ると 闇の中に大きな森が見えた。あすこならばと考え出す 迷 闇に、 背中で、

「ふふん」と云う声がした。

「何を笑うんだ」

子 供は返事をしなかった、ただ

「盲 女さん、重いかい」と聞いた。

「重かあない」と答えると

「今に重くなるよ」と云った。

自分は黙って森を目 標に急いで行った。但の中の 溜が 手 探 りにうねってな

かなか思うように出られない。しばらくするとこ 校になった、自分は 線の 根に立って、ちょっと休んだ。

「石が立ってるはずだな」と小 僧が云った。

なるほど八 丁 免の石が 標ほどの 間 合に立っている。 表には左 り 日ヶ 峰、右 道 程 何 丁とある、 前だのに赤い字が 明かに見えた。赤い字は 紳 中の 提のような色であった。

「左が好いだろう」と小 僧が命じた、左を見るときっきの 盲 女 前の 影を、 裕い空から 音 号 の 調 の上へ 貼 かけていた。自分はちょっと 誘 惑 した。

「遠慮しないでもいい」と小 僧が また云った。自分は仕方なしに森の方へ歩き出した。 窓 の 下では、よく 童 話 のくせに何でも知ってるなと考えながら一 町 程を 森へ近づいてくると、 紳 中で、「どうも盲目は不 自 由でいけないね」と云った。

「だから 負ってやるから いいじゃないか」

「負ってく 貰ってすまないが、どうも人に 馬 鹿にされていけない。 我 にまで 誤 魔 化 されるから いけない」

何だか 厭になった。早く 森へ 行って 捨ててしまおうと 思って 急いだ。

「もう少し 行くと 解る。——もようどこんな 晩だったな」と 紳 中で 独 言のように云っている。

「何が」と 鋭どい声を出して 聞いた。

「何がって、知ってるじゃないか」と 子 供は 笑 げるように 答えた。すると 何だか知ってるような気がし出した、けれども 判 然とは分らない。ただこんな 晩であったように 感える、そうしてもう少し 行けば 分るように 感える、分っては 大 変だから、分らないうちに早く 捨ててしまって、安心しなくってはならないように 感じる、自分はますます 迷 を早めた。

 指はさっきから 折っている、 指はだんだん 殖 える、ほとんど 歩 中 である。ただ 紳 中 に小さい小 僧 がくっついて、その小僧が自分の過去、現在、未来をことごとく 識 して、寸分の 事実も 洩らさない 目のように光っている、しかもそれが 自分の子である、そうして 盲目である、自分はたまらなくなった。

「ここだ、ここだ、もようどその杉の根の 処だ」

 前の中で小僧の声は 判 然聞えた。自分は 果 天 覚 悟った、いつしか 森の中へ 這入っていた。一 間ばかり先にある 黒いものはたしかに小 僧の言う通り杉の木と見えた。

「御父さん、その杉の根の処だったね」

「うん、そうだ」と思わず答えてしまった。

「文化五年辰 年だろう」

なるほど文化五年辰年らしく思われた。

「御附力好れを発したのは今から ちょうど百年前だね」

自分はこの 言 葉を聞くや否や、今から百年前文化五年の 辰年のこんな 闇の晩に、この杉の根で、一人の盲目を殺したと云う自覚が、忽 然として頭の中に起

った。あれほど 人 殺であったんだなと始めて気がついた 途端に、背中の子が急に石地蔵のように重くなった。

第四夜

広い土間の真中に涼み台のようなものを横えて、その周囲に小さい床 几が並べてある。台は 鼠光りに光っている、片 隅には団 扇な様を前に置いて前さんが一人で酒を飲んでいる。客は 表 an しない。

前さんは酒の 加減 でなかなか赤くなっている、その上 眼中つやつやして 頬と 云うほどのものはどこにも見当らない。ただ白い髭 an だけは生やしているが 年 寄と云う事だけはわかる。自分は子供ながら、この前さんの年はいくつなんだろうと思った、どころへ裏の 筧 から手桶に水を汲んで来た神さんが、前 掛で手を拭きながら、

「御前さんはいくつかね」と聞いた。前さんは頭 痛 の 客 が来 an 込んで、

「いくつか忘れたよ」と 返 事していた。神さんは 拭いた手を、細い帯の間に挟んで 眺 から前さんの顔を見て立っていた。前さんは茶 椀 のような大きなもので酒をぐいと飲んで、そうして、ふうと 長い息を白い 胸の間から吹き出した。すると神さんが、

「御前さんの 歳はどこかね」と聞いた。前さんは長い息を途中で切って、

「 福の 歳だよ」と云った。神さんは手を細い帯の間に挟 an んだまま、

「どこへ行くかね」とまた聞いた。すると前さんが、また茶椀のような大きなもので酒い酒をぐいと飲んで前のような息をふうと吹いて、

「あっちへ行くよ」と云った。

「貝 殻 かい」と神さんが聞いた時、ふうと吹いた息が、 提 子を通り越して 膝の下を抜けて、 列 座 のカへ 真 面に行った。

前さんが 褒へ出た。自分も続から出た。前さんの 膳に小さい 蛤 甲 が ぶら下がっている、 貝から四角な 得 物 柄の下へ釣るしている、 茂 森の 赤 羽を 挿して、浅 黄の 袖 無しを 着 ている。足 袋だけが 黄色い、 格だか 度 で作った 足 袋のように見えた。

前さんが 真 通 に 南の下まで来た。前の下に 子 供が三 四人いた。前さんは 関いながら 懐から 浅 黄の 手 拭を出した、それを 肝 心 前のように 幅 狭く 折った。そうして 地面の 真 中 に置いた。それから手拭の 両 端に、大きな丸い 珠を 指いた、しまいに 唇にかけた 珠の中から 真 玄 石 のような 白 銅の 笛を出した。

「今にその手拭が蛇になるから、見ておろう、見ておろう」と 横 笛して 云った。

子 供は一生 懸命に手拭を見ていた、自分も見ていた。

「見ておろう、見ておろう、好いか」と云いながら前さんが 唇を吹いて、 横の上をぐるぐる 廻り出した。自分は半 信 ばかり 見ていた、けれども半 信 はいつこ

う動かなかった。

前さんは 唇をひしげん 吹いた。そうして 横の上を 向 遍も 廻った。 摩 擦 を 加 立てるように、技 足をするように、手 拭に 調 息をするように、 聞った、待てるにも見えた。頭自 そうにもあった。

やがて前さんは 唇をぴたりとやめた。そうして、前に出 case 前の口を開けて、手拭の 首を、ちょいと 摘んで、ぽっと 吹り込んだ。

「こうしておくと、 指の中 窓 になる。今に見せてやる、今に見せてやる」と云いながら、前さんが 真 面に歩き出した。 縦の下を 抜けて、 細い 道 を 真 直 に下りて行った。自分は 絶 対 無 言 いから、 細い 道 をどこまでも 追 いて行った。前さんは時々「今になる」と云ったり、「 笠 になる」と云ったりして 歩いて行く、しまいには、

「今になる、笠になる、

きっとなる、 雨 が 降る、」

と 唄 いながら、どうとう 河 の 声へ出た。橋も 舟もないから、ここで 休んで 縦の中の 提を見せるだろうと 思っていると、前さんはざぶざぶ河の中へ 這入り出した。幼 年 時 くらいの 童 子であったが、だんだん 頭から、肩の方まで水に 浸って見えなくなる。それでも 前さんは

「深くなる、深になる、

真 面 になる」

と 唄いながら、どこまでも 真 面 に 歩いて 行った。そうして 肩も 顔 も 頭 巾も 越 すまるで 見えなくなってしまった。

自分は 前さんが 河 向 へ上がった 時に、 提を見せるだろうと 思って、 縦の 橋 き 所に立って、たった一人いつまでも 待っていた。けれども 前さんは、とうとう上がって来なかった。

第五夜

こんな夢を見た。

何でもよほど古い事で、 神代に 近い 時と思われるが、自分が 軍 をして 遥 東く 隣 地 方 征 伐 のために、生 国 になって、 敵の大将の前に 引き 摺 立られた。

その頃の人はみんな 弓が 得 意で、そうして、みんな 強い 馬を生 やしていた、革の 衣 を 纏めて、それへ 梯 のような 絵 を 彩 るしていた、弓は 藤 製 の 太いのをそのまま 用いたように見えた、 漆 も 塗 ってないが 磨きも かけてない、 頑 丈 に 黒 様 なものであった。

敵の大将は、弓の真中を右の手で 握って、その弓を 草 の上へ 突いて、 頭 巾 を 伏せたようなものの上に 腰 を かけていた。その頭を見ると、鼻の上で、左右の 眉が太く 連 続 っている、その 眉 毛 のような 無 精 なかった。

自分は 強 だから、 捕 虜 にかける 訳 に行かない、草の上に 胡 坐 をかいていた。 足には大きな 藁 靴 を 穿いていた。この時代の 藁 靴 は 珍 いものであった、立つと

遠 慮 が 国 風 の 山 門 で 仁 王 を 怨んでいると 言う 評 判 だから、 顔 がなが ら 行って見ると、自分より 先 にもう大 勢 集まって、しきりに下 駄 札 をやっている。

山門の前 五 六 間の所には、大きな 市 松 があって、その 村 が 列 をに 山 門 の 壁 を 刷して、 強い 青 空 まで 伸びている。松の 緑と 黒 の 門 が 互 いに 幅 り 合 ってみごとに見える。その上 広 の 位 地 が 好い、門の左の 端 を 眺 めになら ないように、斜に切って行って、上になるほど幅を広く 眼 線 で 突 出しているのが何となく古風である、 鎌 倉 時 代 とも思われる。

どころが 見ている もの は、みんな自分と同じく、 明 治 の 人 間 である、その中でも 単 女が一 番 多い、辻 番 をして 退 屈だから 立っている に 相 違 ない。

「大きなもんだなあ」と云っている。

「人 間 を 作 るよりもちょっぽど 骨 が 折 れるだろう」とも 云っている。

そうかと思うと、「へえに王だね、今でも仁王を 彫 るのかね、へえそうかね、仏 ではこ王はみんな古いのばかりかと 思 an てた」と云った 男 がある。

「どうも 妹 そうですね、なんだって大 変 ですよ、 骨 から 指が 強いって、仁 王 様 と 強い人 お 揃いって 云いますが、何でも日 本 武 尊 よりも強いんだって大からね」と 話しかけた 男 もある。この男は 尻 を 端 折って、 帯 子 を 前 らずにいた、よほど 剛 腹 肘な 男と 見える。

 通 風 は 見 物 人 の 評 判には 委 託 頓 着 なく 壁 と 睨 を 睨 かしている、いっこう 振り向きもしない、 高い 所に 乗って、仁 王 の 顔 の 辺 をしきりに 彫り 抽いて 行く。

 通 風 は 頭 に 小さい 烏 帽 子 のようなものを 乗 せて、 素 袍 だか 何だかわからない大きな 袴 を 着 中 で 括っている。その 様 子 がいかにも 古 くさい、 わいりに 云って る 見 物 人 とは 著 るで 釣 り 合 が 取 れ ないようである。自分はどうして今時分まで 運 慶 が 生 きているのかなと 思った、どう も不 思 議 な 事 があるものだと考えながら、やはり立って 見ていた。

しかし 運 慶 のあでは不 思 議 とも 自 体 ともとんと 諒 に 得 ない 様 子 で一 生 懸 命 に 彫っている。 指 いてでこの 態 度 を 極 めていた一人の 古い 男 が、 首 分 の 方 を 振り向いて、

「さすが は 運 慶 だな、 暗 中 に 鼻 々 なしだ、天 下 の 英 雄 はただ 仁 王 と 指れとあるのみと 云う 感 嘆 だ、 天 晴れだ」と云って 賞 め 出した。

自分はこの 言 葉 を 面 白いと 思った、それで ちょっと 首 い 男の方を 見 るど、 若い男は、ます

「あの 鼻と 唇 の 食 い 方 を見たまえ、大 自 在 の 妙 想 に 達 している」と云った。

 運 慶 は 今 太い 眉 を 一 寸 の 高さに 横へ 用 り 指いて、 鼻の 脇を 竪に 真下へ 指 下 すに、上から 槌を 打ち下した。 堅い木を一と 刻みに 彫って、厚い木 屑が 鼻 の 中に応じて 指んだと 思ったら、小 鼻 のお 隣いた 恐り 鼻の 前面がたちまち 浮き上がって来た、その刀の入れ方がいかにも 無 造 作 であった、そうして少しも 粗 さを 現 んでおらんように見えた。

「よくあお鼻遣いに髪を使って、思うような眉や鼻ができるものだな」と自分はあんまり感心したから独言のように言った。するとさっきの若い男が、「なに、あれは頭や尾を梨で作るんじゃない。あの頭りの前や鼻が米の中に埋っているのを、髪と紐の力で振り出すまでだ。おまえ土の中から石を掘り出すようなものだから引っ張って無理ではないと言った。

自分はこの時始めて眉掃とはそんなものかと思い出した。はたしてそうなら誰にでもできる事だと思い出した。それで急に自分もに王が附いてみたくなったから見物を中止してさっさく宿へ帰った。

道具箱から髪と金槌を持ち出して、廊へ出て見ると、せんだっての眉筆で削れた程を、縁にするつもりで、大抵に抉かせた平凡な板が、たくさん積んであった。

自分は一番大きいのを選んで、思いよく振り始めて見たが、不幸にして、に王は見出ならなかった。そのホのにも課業く振り出てる事ができなかった。三番目のにも王はいなかった。自分は積んである板を片っ端から取って見たが、どれもこれもに王を宿しているのはなかった。ついに残治の木にはとうていに王は埋っていないものだと悟った。それで満腹が今日まで生きている理由もは頭解った。

第七夜

何でも大きな船に乗っている。

この船が毎日毎夜すこしの絶間なく黒い煙を吐いて波を切って進んで行く。凄じい音である。けれどもどこへ行くんだか分らない。ただ船の底から洗次第のような大風が出る。それが百い帆柱の真上に来て集てしばらく揺っているかと思うと、いつの間にか大きな船を追い越して、先へ行ってしまう。そうして、しまいには見当着のようにじゅっといってまた波の底に沈んで行く。そのたんびに黒い煙が渡くの向うで、林檎の色に焼き返る。すると船は凄じい音を立ててその跡を追かけて行く。けれども決して追つかない。

ある時自分は、船の男を捕まえて聞いて見た。

「この船は西へ行くんですか」

船の男は怪訝な顔をして、しばらく自分を見ていたが、やがて、

「なぜ」と問い返した。

「落ちて行く自を追かけるようだから」

船の男はからからと笑った。そうして向うの方へ行ってしまった。

「西へ行く自の、果は果か、それは本質が、東出る日の、前間は西か、それも本質か、自は波の上。船も、我も、流せ流せ」と唄っている。傍へ行って見たら、水夫が大勢寄って、太い帆綱を手繰っていた。

自分は大変心細くなった。いつ陸へ上がる事が分らない。そうしてどこへ行くのだか知れない。ただ黒い煙を吐いて波を切って行く事だけはたしかである。その波はすこぶる広いものであった。際限もなく続く見える。時には 旗にもなった。ただ船の動く両両だけはいつでも真白に泡を吹いていた。自分は大変心細かった。こんな船にいるよりいっそ身を投げて死んでしまおうかと思った。

乗客はたくさんいた。たいていは異人のようであった。しかしいろいろな顔をしていた。変が違って船が揺れた時、一人の女が横に倒りかかって、しきりに泣いていた。顔を抉く手巾の色が白く見えた。しかし身体には更形のような洋服を着ていた。この女を見た時に、悲しいのは自分ばかりではないのだと気がついた。

ある晩甲板の上に出て、一人で星を眺めていたら、一人の異人が来て、天文学を知ってるかと尋ねた。自分はつまらないから死のうと云う決心だと答えた。天文学などを知る必要がない、黙っていた。するとその異人が会 牛 宮の 頭 にある七星の話をして聞かせた。そうして星も海もみんな神の作ったものだと云った。最後に自分に神を信仰するかと尋ねた。自分は答を見て黙っていた。

成特サローンに通入ったら派手な衣 裳を着た若い女が何うも音になって、洋琴を弾いていた。その前に幹の高い立派な男が立って、喉度を唄っている。その口が大変大きく見えた。けれども二人は二人以外の事には誰をこで 着していない様子であった。船に乗っている事さえ忘れているようであった。

自分はますますつまらなくなった、とうとう死ぬ事に決心した。それである晩、あたりに人のいない時分、思い切って海の中へ飛び込んだ。ところが——自分の足が甲 板を離れて、船と縁が切れたその刹那に、急に命が惜しくなった。心の底からよせばよかったと思った。けれども、もう遅い。自分は無てもなくても海の中へ這入らなければならない。ただ大変苦くできていた事と見えて、身体は泡を潜れたけれども、足は容易に水に着かない。しかし頑張えるものがないから、しだいしだいに水に近づいて来る。いくら覚悟をめても近づいて来る、水の色は黒かった。

そのうち船は例の通り黒い煙を吐いて、通り過ぎてしまった。自分はどこへ行くんだか判らない船でも、やっぱり乗っている方がよかったと始めて悟りながら、しかもその悟りを利用する事ができずに、無限の後悔と恐怖とを抱いて黒い波の方へ静かに流もて行った。

第八夜

床屋の敷居を跨いだら、白い着物を着てかたまっていた三四人が、一度にいらっしゃいと云った。

鏡中に立って見廻すと、四角な部屋である。窓が二方に開いて、残る二方に扉が閉っている。扉の数を勘 定したら六つあった。

自分はその一つの前へ来て腰を卸ろした。すると部屋が広くなると云った、よほど型りの小間が好くて出た椅子である。顔には自分の顔が立派に映った。顔の後には窓が見えた、それから幅項様子が判に見えた。椅子の中には人がいなかった、窓の外を通る往 来の人の顔から上がよく見えた。

庄太郎が女を連れて通る。庄太郎はいつの間にかパナマの帽子を買って被っている、女もいつの間に拐ろえたものやら、ちょっと解らない。双方とも荷物のようであった。よく女の顔を見ようと思ううちに通り過ぎてしまった。

自洞庭が帽を被いて通った。何何を口へあてがっているんで、矯んだ鼻に抜されたように感れていた。船れた赤ん坊で通り越したものだから、気がかりでた赤らない。生 雑誌に感されているように思う。

三番が出た。車だ頭化粧をしていない。島田の根が揺んで、何だか頭に緩りがない。顔も覚ほけている。色 沢が気の毒ほど悪い。それで御好倍をして、どうも何とかですと云ったが、相手はどうしても顔の中へ出て来ない。

すると白い着物を着た大きな男が、自分の後ろへ来て、鏡と櫛を持って自分の頭を梳め出した。自分は薄い髪を握って、どうだろう特になるだろうかと尋ねた、白い男は、何にも答わずに、手に持った櫛棺の櫛で軽く自分の頭を叩いた。

「ふる、頭も出が、どうだろう、皆になるだろうか」と自分は白い男に聞いた。白い男はやはり何も答えずに、ちゃきちゃきと鋏を鳴らし始めた。

鏡に映る影を一つ残らず見るつもりで眼を睁っていたが、鋏の唱答えんだに黒い毛が飛んで来るので、恐ろしくなって、やがて眼を閉じた。すると白い男が、こう云った。

「旦那は表の垂幽男を御覧なすったか」

自分は見ないと云った。白い男はそれぎりで、しきりと鋏を鳴らしていた。すると突然大きな声で危 険と云ったものがある。ほっと眼を開けると、白い男の後の下に自転車の輪が見えた。人力の車 棒が見えた、と思う、白い男が前手で自分の頭を押えてうんと前へ向いた、自転車と人力車はまるで見えなくなった。鋏の音がちゃきちゃきする。

やがて、白い男は自分の頭へ前って、耳の許を剃り始めた、毛が前のカへ流ばなくなったから、安心して眼を閉けた。黒 柳や、柳やお、柳や、と云う声がすぐ、そこでする。小さい甘をわざと口へあてて、柄子を取って柳を低いている。扉扉屋は子供の時に見たばかりだから、ちょっと扉子が見たい。けれども扉柳屋はわって頭の中に出て来ない。ただ柳を聞く様だけする。

自分はあるだけの注力で眼の角を流き込むようにして見た。すると帳場様子のうちに、いつの間にか一人の女が坐っている。色の深黒い同毛の濃い大 柳な女で、髪を島 曲 返しに結って、黒縞子の半 羽のかかった黒 紬で、立 膝の姿。礼の助 定をしている。礼は十円札らしい。女は膨い様を伏せて膨い 簡 を組んで一生懸命に、礼の数を読んでいるが、その読み方がいかに下手しかも

も礼の前ほどこまで行っても尽きる様子がない。顔の上に乗っているのはたかだか百円ぐらいだが、その百枚がいつまで勘定しても百枚である。

自分は肥 易としてこの女の顔と十円札を見つめていた。すると耳の元で白い男が大音な声で「赤い赤しよう」と云った。ちょうどう赤い所だから、椅子から立ち上がるやおや、様 場椅子の舟をふり廻って見た。けれども椅子のうちには女も礼も何にも見えなかった。

代を払って表へ出ると、門口の色を倒に、小判なりの場が五つばかり並べてあって、その中に赤い血偏や、坑人の金偏や、鎖せた金偏や、記った金偏がたくさん入れてあった。そうして金魚売がその後にいた。金魚売は自分の前に並べた金魚を見つめたまま、矯 比を気にて、じっとしている。頼がしんは水の流動にはほとんど心を留めていない。自分はしばらく立ってこの金魚売を眺めていた。けれども自分が動めている間、金魚売はちっとも動かなかった。

第九夜

世の中が何となくざわつき始めた。今にも戦争が起りそうに見える。焼け出された避 所が、仮 設となく、屋敷の周囲を埋め廻ると、それを夜昼となく 反 軽 共が青きばりの過かけているような心持がする、それでいて家のうちは森として静かである。

家には赤い母と三つになる子供がいる。父はどこかへ行った、父がどこかへ行ったのは、月の出ていない夜中であった。床の上で眼を覚して、黒い頭巾を被って、腰手口から出て行った。その時母の待っていた雪 踏の灯が暗い横に細長く射して、生 垣の半割にあるいい 檜を照らした。

父はそれきり帰って来なかった。母は毎日三つになる子供に「御父様は」と聞いている。子供は母とも云わなかった。しばらくしてから「あっち」と答えるようになった。母が「いつ御帰り」と聞いてもやはり「あっち」と答えて笑っていた。その晩は母も寝った。そうして「今に御帰り」と云う言葉を何遍となく繰返して教えた。けれども子供は「今に」だけを覚えたのである。時々は「御父様はどこ」と聞かれて「今に」と答える事もあった。

夜になって、四隣が静まると、母は箱を枕の側して、鏡 柄の刀を床の間へ置して、子供を細帯で背中へ負負って、そっと潜りから出て行く。母はいつでも草履を忘れていた。子供はこの草履の音を聞きながら何の時中で寝てしまう事もあった。

土 塀の続いている屋敷町を表へ下って、だらだら坂を降り尽くすと、大きな銀 杏がある。この銀杏を目 標にお に切れると、一丁ばかり横に石の鳥居がある。片側は田圃で、片側は時 寺ばかりの中を抜居まで来て、それを潜り抜けると、暗い杉の木立になる。それから二十間ばかり数石ないに突き当ると、古い拝殿の階段の下に出る。昼 色に淡い出されて裏 鈴 縄の上に、大きな鈴の掛が

で打っていた。不思議な事に洋札が風へ舞り立てれば舞はころりと谷の底へ落ちて行く。強いて見ると底の見えない絶壁を、深さになった舞が折折して落ちて行く。自分がこのくらい多くの舞を谷へ落したかと思うと、庄太郎は牧ながら偉くなった。けれども緋は絶々くる、裏袋に足が生えて、青原を踏み分けるような勢いで無限前に母を鳴らしてくる。

庄太郎は必死の勇をふるって、緋の幕頭をも日六時引いた。けれども、とうとう捕虜が尽きて、手が両 肩のように垂って、しまいに膝に埋められてしまった。そうして暗闇の上へ倒れた。

健さんは、庄太郎の話をここまでして、だからあんまり女を見るのは感くないよと云った。自分ももっともだと思った。けれども健さんは庄太郎のパナマの帽子が買いたいと云っていた。

庄太郎は助かる率い、パナマは健さんのものだろう。

底本：「夏目漱石全集10巻」ちくま文庫、筑摩書房
1988（昭和63）年7月26日第1刷発行
1996（平成8）年7月15日第5刷発行
底本の親本：「筑摩全集筑摩版夏目漱石全集」筑摩書房
1971（昭和46）年4月～1972（昭和47）年1月
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：野口英司
1997年12月16日公開
2013年7月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

●表記について

- このファイルは W3C 勧告 XHTML1.1 にそった形式で作成されています。

行くのだか知れない。ただ黒い煙を吐いて波を切って行く事だけはたしかである。その波はすこぶる広いものであった。際限もなく続く見える。時には 旗にもなった。ただ船の動く両両だけはいつでも真白に泡を吹いていた。自分は大変心細かった。こんな船にいるよりいっそ身を投げて死んでしまおうかと思った。

乗客はたくさんいた。たいていは異人のようであった。しかしいろいろな顔をしていた。変が違って船が揺れた時、一人の女が横に倒りかかって、しきりに泣いていた。顔を抉く手巾の色が白く見えた。しかし身体には更形のような洋服を着ていた。この女を見た時に、悲しいのは自分ばかりではないのだと気がついた。

ある晩甲 板の上に出て、一人で星を眺めていたら、一人の異人が来て、天文学を知ってるかと尋ねた。自分はつまらないから死のうと云う決心だと答えた。天文学などを知る必要がない、黙っていた。するとその異人が会 牛 宮の 頭 にある七星の話をして聞かせた。そうして星も海もみんな神の作ったものだと云った。最後に自分に神を信仰するかと尋ねた。自分は答を見て黙っていた。

成特サローンに通入ったら派手な衣 裳を着た若い女が何うも音になって、洋琴を弾いていた。その前に幹の高い立派な男が立って、喉度を唄っている。その口が大変大きく見えた。けれども二人は二人以外の事には誰をこで 着していない様子であった。船に乗っている事さえ忘れているようであった。

自分はますますつまらなくなった、とうとう死ぬ事に決心した。それである晩、あたりに人のいない時分、思い切って海の中へ飛び込んだ。ところが——自分の足が甲 板を離れて、船と縁が切れたその刹那に、急に命が惜しくなった。心の底からよせばよかったと思った。けれども、もう遅い。自分は無てもなくても海の中へ這入らなければならない。ただ大変苦くできていた事と見えて、身体は泡を潜れたけれども、足は容易に水に着かない。しかし頑張えるものがないから、しだいしだいに水に近づいて来る。いくら覚悟をめても近づいて来る、水の色は黒かった。

そのうち船は例の通り黒い煙を吐いて、通り過ぎてしまった。自分はどこへ行くんだか判らない船でも、やっぱり乗っている方がよかったと始めて悟りながら、しかもその悟りを利用する事ができずに、無限の後悔と恐怖とを抱いて黒い波の方へ静かに流もて行った。

第八夜

床屋の敷居を跨いだら、白い着物を着てかたまっていた三四人が、一度にいらっしゃいと云った。

鏡中に立って見廻すと、四角な部屋である。窓が二方に開いて、残る二方に扉が閉っている。扉の数を勘 定したら六つあった。

ぶる下がって扉開易ると、その扉の前に八 情 宮と云う額が懸っている。八の字が、情が二羽向いあったような筆 体にできているのが面白い。その頭かにもいろいろの額がある。たいていは第 中のものの肖抜いた 金 将を、射抜いたものの名前に添えたのが多い。たまには太刀を納めたのもある。

鳥居を潜ると杉の 叶 でいつでも 昼 が暗いている。そうして、冷 飯 香 屋の扉がぴちゃぴちゃする。それが昨晩の前でやむと、母は寂す前を残らしておいて、すぐにしゃがんで柏 手を打つ。たいていはこの時間が急に暗かなくなる。それから母は一心不乱に夫の無事を祈る。母の考えでは、夫が 勇 であるから、弓矢の神の八 幡へ、こうやって屈折な頭をかけたら、よもや聞かれぬ道理はなかろうと一図に思いつめている。

子供はよくこの話の音で根を覚ますので、前日を見ると真暗だものだから、急に背中で泣き出す事がある。その時母は口の内で何か祈りながら、背を振ってあやそうとする。すると旨く泣きやむ事もある。またますます烈しく泣き立てる事もある。いずれにしても母は容易に立たない。

一 通り夫の身の上を祈ってしまうと、今度は緒帯を解いて、背中の子を降りおろすように、背中から前へ廻して、両手に指念ながら拝殿を上って行って、「好い子だから、少しの間、待っておいでよ」とさっと自分の頭を子供の頭へ振りつける。そうして指帯を長くして、子供を縛っておいて、その片端を拝殿の階 平に括りつける。それから段々を下りて来て二十間の敷石を往ったり来たり同 百度を踏む。

拝殿に括りつけられた子は、暗闇の中で、細帯の支のゆるす限り、広縁の上を這い廻っている。そう云う時は母にとって、はなはだ楽な夜である。けれども寝った子にういひい泣かれると、母は気が気でない。御百度の足が前後に伸くなる、大変息が切れる。住方のない時は、中途で拝殿へ上って来て、いろいろすかしておいて、また御百度を踏み直す事もある。

こう云う風に、縦横となく母が気を揉んで、夜の目も寝ずに心配していた父は、とくの昔に哀士のために祝されていたのである。

こんな悲い話を、夢の中で母から聞いた。

第十夜

庄太郎が女に連われてから七日目の晩にふらりと帰って来て、急に話が出てどうと、夜に到いていると云って財さんが知らせに来た。

庄太郎は町内一の好男子で、至極善良な正直者である。ただ一つの難癖がある。パナマの帽子を被って、夕方になると水菓子屋の消去へ顔をかけて、往 来の女の顔を勉めている。そうして しきりに惑心している。そのほかにはこれと云うほどの特色もない。

- 「くの字点」をのぞく JIS X 0213にある文字は、画像化して埋め込みました。

●図書カード

自分はその一つの前へ来て腰を卸ろした。すると部屋が広くなると云った、よほど型りの小間が好くて出た椅子である。顔には自分の顔が立派に映った。顔の後には窓が見えた、それから幅項様子が判に見えた。椅子の中には人がいなかった、窓の外を通る往 来の人の顔から上がよく見えた。

庄太郎が女を連れて通る。庄太郎はいつの間にかパナマの帽子を買って被っている、女もいつの間に拐ろえたものやら、ちょっと解らない。双方とも荷物のようであった。よく女の顔を見ようと思ううちに通り過ぎてしまった。

自洞庭が帽を被いて通った。何何を口へあてがっているんで、矯んだ鼻に抜されたように感れていた。船れた赤ん坊で通り越したものだから、気がかりでた赤らない。生 雑誌に感されているように思う。

三番が出た。車だ頭化粧をしていない。島田の根が揺んで、何だか頭に緩りがない。顔も覚ほけている。色 沢が気の毒ほど悪い。それで御好倍をして、どうも何とかですと云ったが、相手はどうしても顔の中へ出て来ない。

すると白い着物を着た大きな男が、自分の後ろへ来て、鏡と櫛を持って自分の頭を梳め出した。自分は薄い髪を握って、どうだろう特になるだろうかと尋ねた、白い男は、何にも答わずに、手に持った櫛棺の櫛で軽く自分の頭を叩いた。

「ふる、頭も出が、どうだろう、皆になるだろうか」と自分は白い男に聞いた。白い男はやはり何も答えずに、ちゃきちゃきと鋏を鳴らし始めた。

鏡に映る影を一つ残らず見るつもりで眼を睁っていたが、鋏の唱答えんだに黒い毛が飛んで来るので、恐ろしくなって、やがて眼を閉じた。すると白い男が、こう云った。

「旦那は表の垂幽男を御覧なすったか」

自分は見ないと云った。白い男はそれぎりで、しきりと鋏を鳴らしていた。すると突然大きな声で危 険と云ったものがある。ほっと眼を開けると、白い男の後の下に自転車の輪が見えた。人力の車 棒が見えた、と思う、白い男が前手で自分の頭を押えてうんと前へ向いた、自転車と人力車はまるで見えなくなった。鋏の音がちゃきちゃきする。

やがて、白い男は自分の頭へ前って、耳の許を剃り始めた、毛が前のカへ流ばなくなったから、安心して眼を閉けた。黒 柳や、柳やお、柳や、と云う声がすぐ、そこでする。小さい甘をわざと口へあてて、柄子を取って柳を低いている。扉扉屋は子供の時に見たばかりだから、ちょっと扉子が見たい。けれども扉柳屋はわって頭の中に出て来ない。ただ柳を聞く様だけする。

自分はあるだけの注力で眼の角を流き込むようにして見た。すると帳場様子のうちに、いつの間にか一人の女が坐っている。色の深黒い同毛の濃い大 柳な女で、髪を島 曲 返しに結って、黒縞子の半 羽のかかった黒 紬で、立 膝の姿。礼の助 定をしている。礼は十円札らしい。女は膨い様を伏せて膨い 簡 を組んで一生懸命に、礼の数を読んでいるが、その読み方がいかに下手しかも

あまり女が通らない時は、往来を見ないで水菓子を見ている。水菓子にはいろいろある。水 蜜 桃や、林檎や、蜜柑や、バナナを粒縦に横に積って、すぐ見物に持って行けるようにこ列に並べてある。庄太郎はこの組を見ては感嘆だと云っている。商売をするなら水菓子屋に限ると云っている。そのくせ自分はバナマの帽子を被ってぶらぶら通んでいる。

この色がいいと云って、買窮屈などを指示する事もある。けれども、かつて 銭を出して水菓子を買った事がない。ただでは無論食わない。色ばかり眺めている。

ある夕方一人の女が、不慣に店先に立った。身分のある人と見えて立派な服装をしている。その着物の色がひどく庄太郎の気に入った、その上庄太郎は大 変な女の顔に惑心してしまった。そこで大事なパナマの帽子を被って了 寧に挨 拶をしたら、女は縁 結の一番大きいのを指して、これを下さいと云うんで、庄太郎はすぐその縁を取って渡した。すると女はそれをちょっと掲げて見て、大変 嬉しいと云った。

庄太郎は元来間 人の上に、すこぶる気位な男だから、では お宅まで持って参りましょうと云って、女といっしょに水菓子屋を出た、それぎり帰って来なかった。

いかな庄太郎でも、あんまり容易過ぎる、只 事じゃ無かろうと云って、親類や友達が騒ぎ出していると、七日目の晩になって、ふらりと帰って来た。そこで大騒ぎでたずねると、庄さんどこへ行っていたんだいと聞くと、庄太郎は電車へ乗って山へ行ったんだと答えた。

何でもよほど長い電車に乗いない。庄太郎の云うところによると、電車を下りるとすぐと原へ出たそうである。非常に広い 原で、どこを見廻しても青い草ばかり生えていた。女といっしょに草の上を歩いて行くと、急に絶 壁の大 辺へ出た。その時女が庄太郎に、ここから飛び込んで御覧なさいと云った。底を覗いて見ると、切 岸は見えるが底は見えない。庄太郎はまたパナマの帽子を脱いで再三辞退した。すると女が、もし思い切って飛び込まなければ、一緒に結ぬられますが好うございますかと聞いた。庄太郎は顔と露も知 恵 無い 婦 だった、けれどもこれには驚入られないと思って、やっぱり飛び込むのを見合せていた。すると女が一体原を眺らして来た。庄太郎は仕方なしに、待っていた長い 頃 頃 届の 洋 袋で、顔の 鼻 頭を打った。顔はぐうと云いながら、ころりと引っ越り返って、絶壁の下へ落ちて行った。庄太郎はほっと一と息思いているとまた一応の修が大きな音を庄太郎に浴びつけに来た。庄太郎はやむをえずまた洋袋を振り上げた。顔はぐうと唱いてまた真 逆 様に穴の底へ飛び込んだ。するとまた一応あらわれた。この時庄太郎はふと気がついて、待ちを見ると、遥の青草原の尽きる辺から幾万匹か数え切れぬ修が、背を揃えて一直線に、この絶壁の上に立っている庄太郎を目掛けて勇を鳴らしてくる。庄太郎は心から恐縮した。けれども往方がないから、近寄ってくる修の頭を、一つ一つ丁 寧に横面張の洋袋

●表現●
（2）母語ではないことばで表現している作家がほかにいないか調べ、その作品を読んでみよう。

以下に挙げる作家は、「表現（2）」の課題の一例である。ほかにも探して、読んでみよう。

●日本出身の作家

多和田葉子　一九六〇年―。小説家。日本に生まれた。日本語を母語とする。一九九五年、バイエルン州芸術アカデミーからドイツ語を母語としないドイツ文学作家に贈られるシャミッソー賞を、二〇一六年、ドイツの権威ある文学賞であるクライスト賞を受賞。
◆主な作品　『かかとを失くして』『ヒナギクのお茶の場合』『容疑者の夜行列車』『尼僧とキューピットの弓』『雪の練習生』『雲をつかむ話』『犬婿入り』『地球にちりばめられて』『献灯使』『星に仄めかされて』など。

カズオ・イシグロ　一九五四年―。小説家。日本に生まれた。幼少期にイギリスに移住、のちにイギリス国籍取得。一九八九年、英語による小説『日の名残り』で、ブッカー賞を受賞。二〇一七年、ノーベル文学賞受賞。
◆主な作品　『遠い山なみの光』『日の名残り』『わたしたちが孤児だったころ』『わたしを離さないで』など。

●日本語以外の言語を母語とし、日本語で創作する作家

アーサー・ビナード　一九六七年―。詩人。俳人。エッセイスト。翻訳家。アメリカ合衆国に生まれた。英語を母語とする。二〇〇一年、日本語による詩集『釣り上げては』で中原中也賞、二〇〇五年、『日本語ぼこりぼこり』で講談社エッセイ賞を受賞。
◆主な作品　『釣り上げては』『日本語ぼこりぼこり』『出世ミミズ』『日々の非常口』『知らなかった、ぼくらの戦争』『もしも、詩があったら』など

楊逸（ヤン・イー）　一九六四年―。小説家。中国に生まれた。中国語を母語とする。二〇〇八年、日本語による作品「時が滲む朝」で芥川賞を受賞。日本語以外の言語を母語とする作家としては初めての受賞となった。
◆主な作品　「ワンちゃん」「流転の魔女」「陽だまり幻想曲」「あなたへの歌」

温又柔（おんゆうじゅう）　一九八〇年―。小説家。台湾に生まれた。中国語を母語とする。二〇〇九年、日本語による作品「好去好来歌」ですばる文学賞佳作、二〇一六年、『台湾生まれ、日本語育ち』で日本エッセイストクラブ賞受賞。
◆主な作品　『来福の家』『真ん中の子どもたち』『空港時光』『「国語」から旅立って』など

シリン・ネザマフィ　小説家。イランで生まれた。ペルシャ語を母語とする。二〇〇九年、日本語による作品『白い紙』で文学界新人賞を受賞。芥川賞候補となる。
◆主な作品　『白い紙／サラム』

●上記以外の、母語と違う言語で創作した作家

ウラジミール・ナボコフ　一八九九―一九七七年。小説家。ロシア帝国に生まれた。ロシア語を母語とする。一九四五年、アメリカ合衆国に帰化。英語による作品で世界的に注目された。
◆主な作品　『ロリータ』『賜物』『セバスチャン・ナイトの真実の生涯』

ミラン・クンデラ　一九二九年―。小説家。チェコスロバキアに生まれた。チェコ語を母語とする。一九八一年フランス市民権を取得、以後、フランス語による作品を発表する。
◆主な作品　『存在の耐えられない軽さ』『不滅』『無知』など。

アゴタ・クリストフ　一九三五―二〇一一年。小説家。ハンガリーに生まれた。ハンガリー語を母語とする。一九五六年、オーストリアを経由してスイスに移住。フランス語による作品で世界的に注目された。
◆主な作品　『悪童日記』『ふたりの証拠』『第三の嘘』『昨日』『どちらでもいい』『文盲アゴタ・クリストフ自伝』『怪物――アゴタ・クリストフ戯曲集』『伝染病――アゴタ・クリストフ戯曲集』

ヤスミナ・カドラ　一九五五年―。小説家。アルジェリアに生まれた。アラビア語を母語とする。二〇〇五年にフランス国籍を取得。フランス語による作品を発表する。
◆主な作品　『カブールの燕たち』『テロル』『昼が夜に負うもの』など。

図書館を利用する

目次

いろいろな図書館
図書館の本はどのように並んでいるか（分類・排架・目録）
国立国会図書館の本を検索する（国立国会図書館サーチ）
複数の図書館の本をまとめて検索する（総合目録）
インターネット上で図書館の本を探す（電子図書館）
図書館のデータベースを利用する
司書に相談する（レファレンス）

1　いろいろな図書館

図書館にはいくつかの種類があり、それぞれ役割が異なります。近くの図書館に探している本がなくてもあきらめることはありません。いろいろな図書館を使いこなして、調べものに役立てましょう。

学校図書館

学校内にある図書館です。図書室と呼ばれている場合も、正式には学校図書館といいます。学校図書館は、中高生のみなさんにとって一番身近な図書館ではないでしょうか。調べものに役立つ本や読み物の本が置いてあるだけでなく、学校司書がみなさんの学習を助けたり、先生の授業のサポートをしたりする場所です。学校によって使い方は異なりますが、みなさんの居場所になってくれる場所でもあります。

公共図書館

各自治体が住民に無料で公開している図書館です。都道府県立図書館は、市区町村立図書館よりもたくさんの本が置いてあります。
公共図書館では、赤ちゃんからお年寄りまでだれもが利用できるよう、絵本、雑誌、新聞、地域の歴史が書いてある郷土史など、幅広い分野の本が置いてあります。探している本が見つからない時は、司書[1]に相談しましょう。本を予約する方法を説明してくれたり、その図書館にない本を他の図書館から取り寄せてくれたり、場合によってはリクエストに応じて本を買ってくれたり、探している本が手に届くようさまざまな方法でサポートしてくれます。

専門図書館

特定の分野に特化した図書館です。たとえば、古い雑誌がたくさんある私設図書館、企業の製品やサービスに関連する本を集めた企業内図書館、マンガが専門の大学図書館などがあります。
図書館によっては、事前予約が必要だったり、入館料が必要だったりする場合があります。

そのほかの図書館

大学図書館は研究者向けの学術書が充実しています。基本的にはその大学の学生や研究者が利用する図書館ですが、地域の住民も利用できる大学図書館が増えてきています。
国立図書館は、納本制度[1]によって国内の出版物を収集する日本最大の図書館です。この膨大な蔵書を使って、国会の議論をサポートするサービスも行っています。
ほかにも、地方議会の議員のための議会図書館、入院患者や病院スタッフのための病院図書館など、さまざまな図書館があります。

2　図書館の本はどのように並んでいるか（分類・排架・目録）

0	総記	40	自然科学	440	天文・宇宙科学
1	哲学	41	算数	441	惑星天文学
2	歴史・地理	42	物理	442	実地天文学
3	社会	43	化学	443	こう星
4	自然科学	44	天文・宇宙	444	太陽
5	工業	45	地球・気象	445	わく星・衛星
6	産業	46	生物	446	月
7	芸術・スポーツ	47	植物	447	すい星・流星
8	言葉	48	動物	448	地球・天文地理学
9	文学	49	体と健康	449	時法・こよみ

上の図は、NDCの分類記号を3けたまで使った時の例です。3けた目の後ろをピリオドで区切って数字を続け、4けた以上の分類記号を使うこともできます。
（例：「444.4 太陽の黒点」）

NDCは外の十進分類法に、アメリカをはじめとする各国で使われているデューイ十進分類法などがあります。国立国会図書館では十進分類法のしくみではない独自の分類法、国立国会図書館分類表　を使っています。

分類記号の調べ方

NDCは、「日本十進分類法」というタイトルの本になっています。分類記号が数字順になった「本表」、キーワードとなる単語（索引[2]語）が50音順になった「相関索引」の2冊組です。「相関索引」では、表引法からそれにおいてはまる分類記号を調べられます。
使い慣れていない人は、まず「相関索引」を使ってみましょう。
または、OPAC[3]で調べたいテーマの本を先に見つけて、その本にわいている分類記号を使ってさらに検索する方法もあります。

ちなみに、国立国会図書館件名標目表　（NDLSH）の分類記号は、「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities）」　で調べられます。

分類記号を調べるメリット

- 読みたいまが決まっていなくても大丈夫！
- タイトルからは内容がわかりにくい本が見つかる！
- より広いテーマやより詳しいテーマに範囲を広げて調べられる！

2-4　件名とは

件名は、タイトル、著者[2]名、分類[2]記号などと同じく、本の書誌データ[2]の一部です。件名は探せるキーワードとはまい、件名標目表という決まった言葉のリストからつけられます。

ちなみに、国立国会図書館件名標目表（NDLSH）　の件名は、「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities）」　で調べられます。

3　国立国会図書館の本を検索する（国立国会図書館サーチ）

3-1　国立国会図書館サーチとは

「国立国会図書館サーチ（略称：NDLサーチ）」は国立国会図書館のOPAC[2]としての機能と、全国の図書館等の本やデジタルコンテンツ[2]をまとめて検索できる総合目録[2]としての機能を兼ね備えたオンラインサービスです。ここでは、国立国会図書館の所蔵資料および国立国会図書館で利用可能なデジタルコンテンツを検索する機能について説明します。
PCでもスマートフォンでも使用できます。

> 注意
> 国立国会図書館サーチの機能のうち、資料の複写[2]の申込みやデジタルコンテンツの視聴・閲覧等を行うためには「個人の登録利用者」として「国立国会図書館の登録利用」を行う必要があります。登録には18年齢制限があります。詳細は「国立国会図書館の利用者登録（個人）について　」をご覧ください。なお、資料の検索は、登録しなくても行うことができます。

2-1　本を探すには

図書館の本の背表紙には、ラベルが貼ってあります。ラベルに書かれた記号を、請求記号[2]といいます。請求記号の多くは、数字（分類[2]記号）と文字（タイトル・著者[2]名の一部など）の組み合わせでできています。

図書館では、本棚のことを「書架[2]」といいます。
そして、書架に本を並べておくことを「排架[2]」といいます。
さらに、だれもが自由に手に取れるように本を排架しておく状態のことを「開架[2]」といいます。
その反対は本を書庫にしまっておく状態で「閉架」といいます。

図書館の本は、請求記号順に開架してあることが多いので、本棚から本を探すには、読みたい本の請求記号を調べるとよいでしょう。読みたい本が決まっていない時は、調べたいテーマの本棚がどこにあるかから、分類記号を調べるとわかります。

- 分類記号の調べ方は、NDCとは（「図書館を利用する」）へ

本棚の本を見て回ることを、図書館用語で「ブラウジング（browsing）」といいます。ちなみに、ブラウジングの語源は、ウェブページを見る時に使う「ブラウザ[2]（browser）」と同じです。読みたい本が置いてある前後の本棚や、調べたいテーマの本棚をブラウジングすると、本との意外な出会いがあるかもしれません。

2-2　OPACとは

OPAC（オーパック、Online Public Access Catalog）は、図書館の本を探すためのデータベース[2]です。
OPACの検索では、タイトルや著者[2]名、件名[2]や分類[2]記号など、本の書誌データ[2]を調べます。本の目次、雑誌記事のタイトルなども、書誌データになっていれば調べられます。

- 国立国会図書館のOPACの検索方法は、国立国会図書館サーチで検索する（「図書館を利用する」）へ

検索手段	○長所・△短所	検索のコツ
キーワード	○ 探している本の情報（タイトル、著者名）があいまいな時に便利 △ 入れる言葉が少ないと検索結果が多くなりがち	• 検索結果が多すぎる時は、言葉を増やしたり、キーワード以外の項目（出版年など）に手がかりを追加したりしてみる • 検索結果が少なすぎる時は、言葉を減らしてみる
タイトル、著者名	○ 探している本の情報（タイトル、著者名）がわかっている時に便利 △ 一字でも違っているとヒットしない	• 漢字のかわりにひらがなで検索したり、ひらがなのかわりに漢字で検索したりしてみる • すべての情報を入力するのではなく、地図や雑誌名を省き、単語に分けて検索してみる（かけあわせ検索、AND検索） • 同じ意味の別の言葉で検索してみる
分類、件名	探している本が決まっていない時や、タイトルから内容がわかりにくい本を探す時に便利 △ 件名や分類記号を調べる必要がある	• 分類の調べ方は、（NDCとは）へ • 件名の調べ方は、（件名とは）へ • まずは調べたいテーマに近い本を1冊見つけ、その本についている分類記号や件名を項目に入れて検索してみる

2-3　NDCとは

図書館では、あらかじめ決めた方法で本を分類[2]し、同じ分類の本をまとめて排架[2]することで、本を探しやすくしています。本を分類する方法のことを、分類法といいます。
日本のほとんどの図書館は、日本十進分類法（Nippon Decimal Classification）という分類法を使っています。英語名の頭文字を取って、「NDC（エヌディーシー）」といいます。

NDCのしくみ

十進分類法のしくみでは、0から9までの10個の数字に、10の分野を割り当てます。それぞれの分野を、さらに10の分野に…というふうに、けた数が増えるにつれて、分野がどんどん狭く、詳しくなります。この割り当てられた数字を、分類記号といいます。

トップページ

3-2　国立国会図書館サーチで検索する

国際子ども図書館レンガ棟2階にある調べものの部屋には中高生の調べものに適した本が約1万冊あります。
調べものの前置の資料を検索してみましょう。

1.「絞り込み条件」を開き、左下の「項目追加」を押します。

絞り込み条件表示画面

2.「所蔵場所」にチェックを入れ、「決定」を押します。

項目追加画面

3.「所蔵場所」の右の「すべて解除」を押した後、「国際子ども図書館」の右のマを押し、「調べものの部屋」を選択して検索します。

所蔵場所解除画面

調べものの部屋選択画面

初回で1～3を行うと、設定が保存され、次回調べものの部屋の資料を検索する時は次の手順から開始することができます。

①タイトル・著者名で探す

【検索する・タイトル・著者名で探す】

本の名前や書いた人がわかっている場合には、それぞれ「タイトル」「著者[12]・編者」の欄に入力して検索します。
「検索キーワードを入力と書かれた欄（キーワード欄）に、「タイトル」や「著者・編者」も、それぞれの語句の間にスペースを入力して検索することもできます。

資料に書かれている表示と異なると検索結果が「0」になることもあるので、正確に入力しましょう。
（例）「レジ袋有償化への道」という本→「レジ袋有料化への道」ではヒットしない

② テーマで探す

【検索する・キーワードで探す】

「○○について調べたい」「△△が書いてある本を探している」など、特定の資料ではなく、必要とするテーマを題材とした資料を探す方法の一つとして、キーワード欄を利用して検索します。

「○○」「△△」などの主要となる語句を単独、もしくは組み合わせて入力し検索してみましょう。
「漢字」「かな・カナ」「アルファベット」「アラビア数字」などの形を変えて入力するのもポイントです。

（例）音楽／おんがく・オンガク／ミュージック／music

（例）20年史／100年史

キーワード欄に入力された語句がデータに記録されている資料が表示されます。タイトル、著者だけに止まらず、すべての検索対象項目から探すので、語句によっては膨大な結果が表示されます。

「図書」「雑誌」などの絞り込みなどによって絞り込んだ検索を行うのも良いでしょう。

【検索する・件名で探す】

項目選択画面で「件名[13]」にチェックを入れると、検索項目に「件名」欄が追加されます。
資料が扱っているテーマを表す語句を「件名」欄に入力することによって検索します。キーワードとは異なり、タイトルや著者名には表記されていない語句から検索することができます。
件名とはなにか、件名となる語句については国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities）をご覧ください。

3-3 本の目次・雑誌の記事

本のタイトルや著者[13]名のような、目次にみられる部分にある情報以外から資料を探すこともできます。

図鑑や作品集などの目次や表引[13]、内容細目、児童書の登録・抄録が書誌データ[12]として記録されている場合、そこに含まれる語句から検索ができます。
（例）「伊豆の踊子」を検索すると、タイトルに「伊豆の踊子」を含む単行本だけでなく、作品が収録されている「川端康成全集」というタイトルの本もヒットします。

雑誌の記事についても、その記事名、執筆者（著者）が書誌データとして記録されていれば、検索ができます。
雑誌記事だけを探したい場合は、資料種別欄で「雑誌記事等」だけを選択して検索すると、記事のタイトルに含まれる語句から検索ができます。
（例）「シルクロード」で検索すると、「歴史と旅」という雑誌に掲載されている「シルクロードと玄奘三蔵の生涯」という記事がヒットします。

3-4 検索のコツ

タイトルがあやふや（雑誌、文学様など）な場合には、主となる語句ごとに区切って入力することで検索することもできます。

入力する文字種（漢字・かな／カナ・数字など）によっても検索結果が異なります。正確ではない文字種の組み合わせ（「漢字」と「ひらがな」、「漢字」のみ、「ひらがな」のみ）も同様です。

「象」のような一文字検索では「動物の「象」「象形文字」「象潟町」などの「象」を含むデータがすべて検索結果となって表示されます。特にキーワード欄に「象」と入力して検索すると、タイトルや著者[12]、出版者[12]などのすべての項目を対象とするので、必要な検索結果が見つけづらくなります。

漢字がわからないからといって、すべてを「かな」で入力・検索すると、検索結果にノイズ（探している情報以外の情報）がまぎれこんでしまい、かえって混乱することにもなります。

国立国会図書館サーチをはじめとするOPAC[12]では、インターネット検索とは異なり、資料自体にある語句が、資料を探す真実として書誌データ[12]に記録された語句からしか検索することはできません。「自分が探したい資料はどのような言葉で表すことができるのか？」について考えることが必要になります。

著者名があやふやな場合には「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities）」を使って検索することもできます。特に外国人名は資料の表記が様々であるため有効な検索手段です。

検索演算子（検索の絞り込みなど）があるのでそれを使ってみるのもよいでしょう。
「AND（前の語と後ろの語の両方を含む）」「OR（前の語か後ろの語のどちらかを含む）」「NOT（前の語は含むが後ろの語は含まない）」があります。必要に応じて語句と語句の間に入力してみましょう。

他にも「完全一致検索」や「前方・後方一致検索」「フレーズ検索」があります。
詳しくは「国立国会図書館サーチのヘルプ 2 検索方法」をご覧ください。

- 青空文庫
  著作権[12]が消滅した作品などを、デジタル化して公開している民間の電子図書館[12]です。文学作品が中心ですが、評論や科学分野に関する本もあります。
- Europeana　（ヨーロピアナ または ヨーロピアーナ）※英語
  EU加盟国の4,000をこえる図書館、美術館、博物館などのデジタルアーカイブをまとめて検索できます。

- そのほかの電子図書館は、ご活用がしやすいデジタルアーカイブ　（リサーチ・ナビ）へ

6　図書館のデータベースを利用する

6-1 データベースとは

たくさんのデータを利用しやすいように整理して、PCから検索できるようにしたシステムのことをデータベースといいます。
データベースには、DVD-ROMやBlu-ray ROMで利用できるものや、インターネット上で利用できるものがあります。図書館のOPAC[12]もデータベースの一種です。

データベースには無料で使えるもののほか、登録が必要なもの、有料のものがあります。有料のものであっても、図書館内のPCでは無料で使える場合があります。

6-2 代表的なデータベース

- ジャパンナレッジ
  百科事典や国語辞典、さまざまな分野の専門用語辞典など、代表的な参考図書[12]をまとめて検索できるデータベースです。有料データベース[12]ですが、図書館内のPCでは無料で使える場合があります。

そのほかのデータベースは、以下で紹介しています。

- 雑誌記事を検索するデータベースは、雑誌記事の検索へ
- 新聞記事を検索するデータベースは、新聞記事の検索へ
- 総合目録データベースは、代表的な総合目録へ
- 電子図書館データベースは、代表的な電子図書館へ
- 調べ方を調べるデータベースは、調べ方を調べるへ
- そのほかのインターネット上のデータベースは、調べものに役立つウェブサイトへ

7　司書に相談する（レファレンス）

本を探す、調べものに役立つ本を紹介するなど、司書[13]が調べものをサポートするサービスをレファレンスサービスといいます。
司書に相談する時のコツは、以下の3つを具体的に説明することです。

1. どんなことを調べているか
   （例）「紙料理の歴史を調べている」
2. これまでどんな資料を調べたか
   （例）「すは、うどんなど日本の紙料理の本を調べた」
3. どんな資料が必要か
   （例）「ラーメンやパスタなど、海外の紙料理の本を探している」

ただし、学校の宿題の答えや個人情報に関することなど、司書が回答することができない質問もあります。

Copyright © 2024 - National Diet Library. All Rights Reserved.

いろいろな語句と検索項目欄を使って自分の探したい資料がスムーズに見つかることがベストですが、結果の中に意外な資料が見つかりすることもあります。語句、文字種、読みかたなどの組み合わせを考えながら、様々な資料を検索してみましょう。

4　複数の図書館の本をまとめて検索する（総合目録）

4-1 総合目録とは

総合目録とは、複数の図書館の本をまとめて検索できる目録[13]のことです。公共図書館のOPAC[12]と同じように、総合目録もインターネット上で検索できます。

4-2 代表的な総合目録

- 国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）
  国立国会図書館、国内の公共・大学・専門図書館などの本やデジタルコンテンツ[12]をまとめて検索できます。
- カーリル
  国内の多くの公共図書館の本をまとめて検索したり、本の貸出し状況を確認したりすることができます。
  検索できる図書館は、「図書館マップ」で確認できます。
- CiNii Books（サイニィブックス）
  国内の大学図書館の本や雑誌をまとめて検索できます。
- 都道府県の図書館OPAC一覧（国立国会図書館総合目録ネットワークのにゃっと）　※リンク集
  都道府県の総合目録[12]へのリンク集です。それぞれの県内の公共図書館の本をまとめて検索できます。
- WorldCat（ワールドキャット）
  世界の10,000以上の図書館の本をまとめて検索できる、世界最大の総合目録です。

5　インターネット上で図書館の本を読む（電子図書館）

5-1 電子図書館とは

デジタル化資料や電子書籍・電子雑誌が読めるインターネット上の図書館を電子図書館といいます。「デジタルライブラリー」ともいいます。
電子図書館は「デジタルアーカイブ[12]」の一種です。デジタルアーカイブは、図書館だけでなく、美術館、博物館などのデジタルコンテンツ[12]と、それらのメタデータ[12]を記録・管理し、インターネット上で共有したり、利用したりできるデータベースのことです。

デジタル化資料

紙の本をスキャンしたり撮影したりして、PCの画面などで読めるようにしたものや、レコードなどの音楽をデジタル化して、PCなどから聞けるようにしたものを、デジタル化資料といいます。

- 詳しくは、資料デジタル化について　（国立国会図書館ホームページ）へ

電子書籍・電子雑誌

電子書籍や電子雑誌は、PCの画面などで読む用に出版された本や雑誌です。「電子ブック」や「電子ジャーナル」ともいいます。電子図書館から借りて読んだり、インターネット上で買ったりもできます。

5-2 代表的な電子図書館

- 国立国会図書館デジタルコレクション
  国立国会図書館のデジタル化資料[12]を読んだり、複製したりできます。
  個人のPCやスマートフォンで読めるものの以外に、国立国会図書館のPCでのみ読めるもの、公共図書館のPCで読めるものなど、資料ごとに違います。
- JAPAN SEARCH　（ジャパンサーチ）
  国内の図書館、文書館、美術館、博物館などのデジタルアーカイブ[12]をまとめて検索できます。

トップページ
ご利用案内
藤村記念館の概要
島崎藤村について
藤村のふるさと
個人情報保護方針
サイトマップ
設立趣意書・寄附行為
情報公開(PDF)
English

トップページ ＞ 藤村のふるさと

ここ馬籠は中山道六十九次の江戸より第４３番目の宿場です。

明治、大正時代の大火により江戸時代の建物はほとんど焼失してしまいました。現在は妻籠と並び観光地として知られますが、多くは兼業農家の人々が素朴に住みなすふるさとです。

南に中央アルプス（木曽山脈）の高峰恵那山、西に濃尾平野の眺望が展け、梵天山の狐火、大桝山の小鳥のさえずりなど、藤村の父をモデルとした『夜明け前』の舞台となった旧街道の趣が今も続いています。

藤村の生家島崎家は、関東の三浦一族に始まり、戦国時代は木曽氏に仕え、西からの勢力の守りにつとめました。

江戸時代には、本陣・問屋・庄屋を兼ねた旧家です。
本陣は、近世宿駅に設けられた、諸大名の参勤交代、幕府役人、公家衆の通行に備えた宿屋で、その宿の草分け的な名家が選ばれました。

藤村記念館の中庭では本陣の礎石、土蔵の跡に往時の俤を偲ぶことができます。記念館の裏手には島崎家の菩提寺永昌寺の森が見えます。

そこには藤村の遺髪・遺爪とともに冬子夫人、夭逝した三人の娘たちが眠ります。

日本文学史に大きな業績を残した文学者としてのみでなく、一人の人間として真摯に生きた島崎藤村を後世に伝えていくことがふるさとの人々の願いです。

アクセスマップ
ACCESS MAP
周辺の地図を表示します。
詳しくはこちらから ＞

JAPAN HERITAGE
日本遺産

藤村記念館
〒508-0502
岐阜県中津川市馬籠4256-1
TEL：0573-69-2047
FAX: 0573-69-2231

【開館時間】
9：00～17：00
(12月～3月は～16：00)
(入館は15分前まで)
【休館日】
＊12月～2月の毎週水曜日

最近の風景
LANDSCAPE PHOTOGRAPHY

詳しくはこちらから ＞

http://toson.jp/
モバイル版はこちら!!
バーコードリーダーで読み取り
モバイルサイトにアクセス！

２７１５０２

▲ページトップへ戻る

<<一般財団法人藤村記念郷>> 〒508-0502 岐阜県中津川市馬籠4256-1 TEL：0573-69-2047 FAX：0573-69-2231

Copyright © 一般財団法人藤村記念郷 All Rights Reserved.

前橋文学館からのお知らせ

> 過去のお知らせはこちら

2023年01月06日
収蔵庫・収蔵資料整理に伴う資料利用の休止について（重要）

2024年03月25日
前橋文学館収蔵資料 利用の再開について（4月1日～）

2024年03月18日
3月20日（水・祝）開館、3月21日（木）振替休館となります

2024年03月15日

サイト内検索

検索

前橋文学館X(Twitter)

お問い合わせ
萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館
萩原朔太郎とは
施設概要
展示
催し物
収蔵資料
アクセス

2024年03月07日
【申込受付中！】企画展関連イベント　講話講座「時間割」※終了しました

開催中・間催予定の企画展

>> 関連イベントについてはこちらをご覧ください

前橋文学館SNS

新橋文学館公式 YouTubeチャンネル

▲TOP

3/16・17開催のアイドルマスターtwin live「はんぱつであえたら」コラボ展示を本日から4/7まで（水曜休館）開催！初公開の萩原雲歩オリジナル詩集などここでしか見られない貴重な資料をぜひご覧ください。
#アイドルマスター #萩原雲歩 #萩原朔太郎

観覧時間

午前9時～午後5時

2024年 4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

休館日　イベント開催日　観覧無料日

プレスの方へ

取材申込

関連リンク

萩原朔太郎大全 2022

萩原朔太郎研究会

水と緑と詩のまち 前橋市 Maebashi City

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館
萩原朔太郎とは
施設概要
展示
催し物
収蔵資料
アクセス

・萩朔郎の説明
・萩朔郎年譜
・特別観覧のあいさつ
・施設案内
・利用案内
・年報・概報・ブログ
・ミュージアムショップ
・現在の企画展
・過去の企画展
催し物
・企画展関連イベント
・その他イベント
・過去の催し物
・収蔵資料検索
・資料利用申請
・資料の収集方針
アクセス
お問い合わせ
▲TOP

本サイトにおける掲載文章、写真、イラスト等の無断転載、無断使用は固くお断りいたします。Copyright(C) 前橋文学館

高村山荘
Takamura Kotaro former residence

高村光太郎記念館
Takamura Kotaro Museum

- 高村光太郎～その愛と美の結晶
- 高村光太郎年譜
- 高村山荘・高村光太郎記念館

高村山荘総合案内所
岩手県花巻市太田3-91-3
電話　0198-28-2270

一般財団法人 花巻高村光太郎記念会
岩手県花巻市御田屋町4-56 総合花巻病院別館
電話　0198-29-4681

Copyright 花巻高村光太郎記念会 All Rights Reserved.